消 防 年 報

令和元年版

有田市消防本部

令和２年刊行

有田市市民憲章

私たちは、美しくめぐみ豊かな自然にはぐくまれ、歴史と伝統に輝くふるさと有田市をかぎりなく愛し、真実を求め平和を願い、未来に向けて生々発展する希望のまちづくりを期し、ここにこの憲章を定めます。

一　自然を愛し、人を大切にするこころ豊かな市民になりましょう。

一　心身をきたえ、健やかで生きがいのある生活をきずきましょう。

一　家庭や地域の環境をととのえ、未来にはばたくたくましい青少年を育てましょう。

一　ともに学び、文化を高め、うるおいのあるまちづくりをめざしましょう。

一　伝統と創造を重んじ、英知を集め、活力あるまちづくりにつとめましょう

もくじ

有田市について　1
有田市消防のあゆみ　2～16

総務関係

1. 消防本部(署)の組織　17
2. 歴代消防長　18
3. 消防本部の事務分掌　19～20
4. 消防班及び係の事務分掌　21
5. 消防庁舎等の状況　22
6. 階級別、年令別消防吏員数　23
7. 市予算と消防費　23
8. 職員の特殊技能等資格取得状況　24
9. 消防友の会・婦人防火クラブ・幼年消防クラブ　25

消防団関係

1. 消防団の組織　26
2. 歴代消防団長　26
3. 各分団等の人員　26
4. 消防団員の階級と人員　26
5. 消防団員在職年数　27
6. 年齢別・階級別消防団員数　27
7. 施設、車両等　28～30
8. 消防操法大会　31～32
9. 消防団の出動状況　33
10. 年間活動行事　33

警 防 関 係

1. 通信系統図 34
2. 消防無線局状況 35
3. 消防車両等 36
4. 消防水利の現況 37～38
5. 消防用資器材の現況 39～40

予 防 関 係

1. 業務別防火対象物別及び防火管理者数 41
2. 中高層建築物用途別棟数 42
3. 各種申請届出事務処理状況 43
4. 建築同意処理状況 44

危 険 物 関 係

1. 製造所等の許可、完成検査、廃止届及び休止届等の状況表 45
2. 製造所等の指定数量別状況表 46
3. 製造所等の類別状況表 47
4. 容量別屋外タンク貯蔵所の数量表 48

火 災 統 計

1. 過去の主な火災 49
2. 過去５年間の火災統計 50
3. 火災発生状況 50
4. 地域別出火件数と損害額 50
5. 月別火災発生状況 51

6. 曜日別火災発生状況 51
7. 出火時間別火災状況 52
8. 風速別火災状況及び損害額 52
9. 湿度別火災状況及び損害額 53
10. 覚知別出動状況 53
11. 出火原因別件数 53

救 急 救 助 統 計

1. 月別救急状況表 54
2. 救急出動件数の推移 55
3. 地区別出動件数 55
4. 事故種別出動件数 56
5. 現場到着所要時間 56
6. 搬送者の収容所要時間 56
7. 事故種別傷病程度 57
8. 年齢区分別傷病程度 57
9. 覚知別 57
10. 搬送患者住居地状況 58
11. 管内・外搬送人員状況 58
12. 管内医療機関別搬送人員状況 59
13. 転送件数及び転送理由 59
14. ドクターヘリ要請件数 60
15. 救急出動への警防隊支援出動件数 60
16. 年別救急講習回数及び参加人数 61
17. 救助活動状況 62
18. 救助人員・出動人員 62

有田市について…

位　　置	北緯　34度5分 東経135度8分
面　　積	36．83㎢
人　　口	27，736人 ※外国人を含む 男13，193人 女14，543人 （令和元年１２月３１日現在）
世 帯 数	11，748世帯

有田市は、和歌山県の北西部、県庁の所在地である和歌山市から南へ約２５キロのところ、有田川の河口近くに位置し、海、山、川の自然に恵まれたところです。

霊峰高野山を源として紀伊水道に注ぐ有田川は、当地方の母なる川であり、歴史、文化など、互いに深いかかわりを保ちながら発展してきた流域の市・町が有田地方として広域圏を形成し、本市はその中核をなしています。

気候は瀬戸内海気候区、南海気候区との接続地帯に当たり、紀伊水道に面していることから年平均気温は摂氏１７．５度と温暖です。年平均降水量は１，６００ミリ程度、積雪はまれです。

主産業は、みかん、魚、石油、その他地場産業の蚊取り線香や作業用手袋の製造などです。昭和２９年９月、箕島町、保田村、糸我村、宮原村の１町３村が合併し、有田町となり、その後、昭和３１年５月に市制を施行し、有田市になりました。また、昭和３７年８月には隣接の初島町と合併し、今日に至っています。

■管内の人口及び世帯数

（令和元年12月31日現在）

	男	女	計	世帯数
初島地区	1,338　人	1,430　人	2,768　人	1,233　世帯
港　地区	1,085　人	1,207　人	2,292　人	1,091　世帯
箕島地区	1,769　人	1,931　人	3,700　人	1,642　世帯
宮崎地区	2,521　人	2,841　人	5,362　人	2,387　世帯
保田地区	3,222　人	3,597　人	6,819　人	2,710　世帯
宮原地区	2,446　人	2,642　人	5,088　人	2,012　世帯
糸我地区	812　人	895　人	1,707　人	673　世帯
計	13,193　人	14,543　人	27,736　人	11,748　世帯

有田市消防のあゆみ

明治３０年　８月　　箕島町に消防組が公認される。

昭和１４年　４月　　警防団令の公布により箕島町、保田村、宮原村、糸我村、椒村の消防組はすべて「警防団」と改組し、消防活動だけでなく防空訓練などにも出動する。

昭和２２年　５月　　消防団令の公布により「消防団」と改まる。その後、同年１２月消防組織法、昭和２３年７月消防法の公布により運営管理はすべて市町村に移り「自治体消防」の発足となる。

昭和２９年　９月　　箕島町、保田村、宮原村、糸我村の４ヶ町村合併により「有田町消防団」となる。

昭和３１年　５月　　市制施行に伴い、名称が「有田市消防団」となる。
（消防団員定数　４２０名）

昭和３６年　３月　　有田市消防団が日本消防協会長から竿頭綬を授与される。

昭和３７年　８月　　初島町の合併に伴い初島町消防団を統合する。
（消防団員定数　４６０名）

昭和３８年　４月　　消防組織法改正により常備消防設置の政令指定される。

昭和３９年１０月　　常備消防準備室を設置する。

昭和４０年　３月　　常備消防として箕島２９番地に、「有田市消防本部」「有田消防署」を開設する。
消防職員１８名、消防ポンプ自動車２台、指令車１台。

４月　　消防団の近代化をめざし分団の整理統合（字単位の分団を初島、港、箕島、宮崎、保田、宮原、糸我の７分団とし、４６０名の団員を２６０名にすると共に新たに水防活動のみを任務とした「水防員」２００名を置く）を行い、機動力強化を目指し１分団１機動（ポンプ自動車１台）１小型（小型動力ポンプ付積載車１台）及び分団器具庫の整備をもりこんだ消防団第１次機構改革を行う。

昭和４０年　６月　　常備消防発足より日々増大する救急要請にこたえ、救急業務

暫定措置要領を制定、指令車（ジープ車）を使用し、活動を始める。

昭和４１年　９月　日本消防協会から救急自動車の配車を受け、本格的な救急業務を開始する。

昭和４２年　２月　有田市消防団が日本消防協会長から表彰旗を授与される。

昭和４３年　４月　日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）１台寄贈され、消防団保田分団に配備する。

昭和４４年　２月　消防ポンプ自動車（ＢＳ－Ⅰ型）１台整備、消防団宮原分団に配備する。

３月　有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。

１０月　消防団第２次機構改革を行う。
（消防団員が２００名となる。）

１１月　消防ポンプ自動車（ＢＳ－Ⅱ型２台、ＢＳ－Ⅰ型１台）３台整備、消防団港、箕島、宮崎各分団に配備する。

昭和４５年　３月　有田市消防本部､有田市消防団が消防庁長官から竿頭綬を授与される。

４月　消防職員の定数を改正し２１名とする。

８月　消防団保田分団詰所を新築する。
（鉄筋２階延べ６８㎡）

昭和４６年　６月　古江見３７番地に消防庁舎を新築し、移転する。
（鉄筋２階延べ５４６㎡）

１２月　消防ポンプ自動車（ＢＳ－Ⅰ型）１台整備、消防団糸我分団に配備する。

昭和４８年　２月　消防団糸我分団詰所を新築する。
（鉄筋２階延べ５９㎡）

６月　消防団宮崎分団器具庫を新築する。
（鉄骨平家建２０㎡）

７月　消防職員の定数を改正し２５名とする。

昭和４９年　３月　消防職員の定数を改正し消防吏員２７名、一般職員１名計２８名とする。

１１月　消防団港分団詰所を新築する。
（鉄筋２階延べ７０㎡）

１２月　消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅱ型）１台整備、消防団初島分団に配備する。

昭和５０年　３月　消防団保田分団器具庫を新築する。
（鉄骨平家建２１㎡）

５月　元消防関係者が会員となり、防火思想を普及し消防の発展に寄与することを目的とした「有田市消防友の会」が発足する。

６月　消防団宮崎分団詰所を新築する。
（鉄筋２階延べ８３㎡）

昭和５１年　６月　石油コンビナート等災害防止法が施行され、本市工業専用地域とこれに面した海岸線の一部が和歌山北部臨海南部地区として特別防災区域の指定を受ける。これに基づき化学消防力の大巾な増強計画（高所放水車、大型化学車、泡原液搬送車の石油コンビナート３点セット整備計画）を樹立する。

８月　第６回和歌山県消防ポンプ操法大会（小型ポンプの部）で消防団保田分団が優勝する。

１０月　和歌山県代表として第５回全国消防ポンプ操法大会に出場する。

昭和５２年　３月　消防団箕島分団詰所を新築する。
（鉄筋２階延べ９３㎡）

４月　消防職員の定数を改正し、消防吏員４１名、一般職員１名計４２名とする。

昭和５３年　３月　有田市消防本部、有田市消防団が消防庁長官から表彰旗を授与される。

大型高所放水車（３０ｍ級はしご 3,150 Ｌ /分）を整備、有田市に配備する。

６月　第７回県下消防救助技術大会（水上の部人命救助）に出場し優勝する。

７月　和歌山県代表として、第７回東近畿支部消防救助技術大会に出場し優勝する。

８月　東近畿支部代表として第７回全国消防救助技術大会に出場し準優勝する。

昭和５４年　２月　大型化学消防車(3,550 Ｌ /分)と泡原液搬送車(4,000 Ｌ)を整備、有田市に配備する。

昭和５５年　３月　消防庁舎を３階に増築し、７３７㎡とする。

消防団糸我分団詰所を増築し、９１㎡とする。

６月　港町８３９番地に有田消防署化学基地を新築し、業務を開始する。（鉄骨２階４８２㎡）
消防職員１０人、三点セット１セット、消防ポンプ自動車１台、指令車１台。

７月　消防団保田分団詰所を増築し、９５㎡とする。

昭和５６年１２月　消防団１分団２機動配備の増強計画を策定する。

昭和５７年　３月　和歌山県事業として有田消防署化学基地に泡原液貯蔵タンク３５ＫＬを設置する。

消防団宮原分団詰所を新築する。
（鉄骨２階延べ１４４㎡）

５月　救急医療情報システムを導入する。

昭和５８年　３月　消防通信指令室を設置（鉄筋平家建１２㎡）
一斉指令装置の整備を行い運用開始する。

消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）３台整備、消防団宮崎、保

田、宮原各分団に配備する。

１０月　保田地区に婦人防火クラブが結成される。

１２月　初島地区に婦人防火クラブが結成される。

消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）４台整備、消防団初島、港、箕島、糸我各分団に配備し、２機動計画を完了する。

昭和５９年　３月　化学消防ポンプ自動車（Ⅰ型）を整備、有田消防署に配備する。

昭和６０年　２月　消防団箕島分団器具庫を新築する。
（鉄骨平家建２１㎡）

３月　防災広報車（２７人乗り）を整備、有田消防署化学基地に配備する。

９月　ぶっとく幼稚園に幼年消防クラブが結成される。

１１月　初島幼稚園に幼年消防クラブが結成される。

昭和６１年　３月　有田消防署化学基地に車庫を新築する。
（鉄骨平家建１０４㎡）

１０月　消防法の改正により救助隊の編成が必要となる。

１２月　消防職員の定数を改正し、消防吏員４３名、一般職員１名計４４名とする。

昭和６２年　２月　救急自動車（２Ｂ型）を整備、有田消防署に配備する。

９月　救助隊の編成に伴い、職員１名を消防大学校（救助科）に派遣する。

箕島、糸我地区に婦人防火クラブが結成される。
１０月　港、宮崎地区に婦人防火クラブが結成される。

１２月　有田消防署化学基地に救助隊（兼務）を編成する。

消防団糸我分団器具庫を新築する。

（鉄骨平家建２１㎡）

昭和６３年　１月　救助工作車（Ⅱ型）を整備、有田消防署化学基地に配備する。

３月　有田市消防友の会が自治体消防４０周年記念大会において日本消防協会長から特別表彰を授与される。

和歌山県農協共済から救急自動車（２Ｂ型）１台寄贈され、有田消防署化学基地に配備する。

７月　宮原地区に婦人防火クラブが結成される。
（市全地区に婦人防火クラブが結成された。）

１０月　日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）１台寄贈され、有田消防署に配備する。

１１月　可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）を整備、有田消防署に配備する。

平成　元年　６月　聴覚障害者の緊急通報にも対応出来るファクシミリを設置する。

９月　東燃株式会社より消防連絡車（スバル　ドミンゴ）１台寄贈され、有田消防署化学基地に配備する。

平成　２年　２月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団保田分団に配備する。

広報車（トヨタ　マークⅡ）１台を整備、有田消防署に配備する。

４月　有田消防署化学基地の名称を有田消防署化学基地出張所に改める。

有田消防署化学基地出張所に潜水隊（兼務）を編成する。

１０月　第１４回婦人防火全国大会において、日本防火協会から有田市婦人防火クラブ連絡協議会に防火広報車（トヨタ　ハイエース）１台寄贈され、有田消防署に配備する。

平成　３年　２月　有田市消防団が日本消防協会から特別表彰「まとい」を授与される。

３月　南海信用金庫から防火広報車（トヨタ スプリンター）１台寄贈され、有田消防署に配備する。

有田消防署化学基地出張所に事務所（鉄骨２階建５８㎡）を増築し５４０㎡とする。

６月　水難救助用ＦＲＰ製組立ボート（５人乗り）船外機（１５馬力）付を整備、有田消防署化学基地出張所に配備する。

１１月　市内全保育所（初島・港町・箕島・宮崎町・古江見・保田・糸我・宮原の８保育所）に幼年消防クラブが結成される。

１２月　消防職員の定数を改正し、消防吏員４６名、一般職員１名、計４７名とする。

平成　４年　１月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団宮原分団に配備する。

３月　消防職員の定数を改正し、消防吏員４８名、一般職員１名、計４９名とする。

６月　第２１回県下消防救助技術会（陸上の部はしご登はん）に出場し、優勝する。

７月　和歌山県代表として、第２１回消防救助技術東近畿地区指導会に出場し、優勝する。

８月　東近畿地区代表として、第２１回全国消防救助技術大会に出場し、上位入賞する。

第１４回和歌山県消防ポンプ操法大会が当市で開催され、ポンプ車の部で消防団糸我分団が優勝する。

９月　資材搬送車（２．９ｔクレーン付）を整備、有田消防署化学基地出張所に配備する。

１０月　消防団保田分団器具庫を新築する。
（鉄骨平屋建２１㎡）

１２月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台及び救急自動車（２Ｂ

型３０００ccＡＴ）１台を整備、有田消防署に配備する。

平成　５年　２月　有田市消防団が日本消防協会長から竿頭綬を授与される。

８月　日本消防協会から指令広報車（日産　ＡＤバン）１台寄贈され、有田消防署化学基地出張所に配備する。

１０月　軽四広報車（ダイハツ　アトレー）１台を整備、有田消防署に配備する。

有田消防署化学基地出張所の敷地を整備する。

１２月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団宮崎分団に配備する。

平成　６年　３月　財団法人日本損害保険協会から高規格救急車（トヨタ）１台寄贈され、有田消防署に配備する。

４月　救急救命士（１名）合格する。

６月　高規格救急自動車の運用を開始する。

９月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団港分団に配備する。

１２月　消防用携帯無線機（１Ｗ）２２基整備、消防団に配備する。

平成　７年　１月　職員１名を消防大学校（警防科）に派遣する。

阪神淡路大震災に係る緊急消防援助隊を神戸市に派遣する。

３月　消防署の名称を有田市消防署に変更する。

４月　消防職員の定数を改正し、消防吏員５１名とする。
消防本部機構改革により、総務課、予防課を設ける。

救急救命士（１名）合格する。

９月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団箕島分団に配備する。

職員１名を消防大学校（予防科）に派遣する。

１０月　消防本部発足３０周年を記念し、消防フェスティバルを有田川左岸河川敷広場において開催する。

１２月　可搬式小型動力ポンプ７台を整備、消防団全分団に配備する。

平成　８年　４月　救急救命士（１名）合格する。

１０月　救急業務高度化の運用を開始する。

可搬式小型動力ポンプ積載車（軽四輪）３台整備、消防団箕島、宮原、糸我分団に配備する。

消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

１２月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団糸我分団に配備する。

平成　９年　４月　救急救命士（１名）合格する。

１０月　可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）４台整備、消防団初島、港、宮崎、保田分団に配備する。

消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

１２月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）１台整備、消防団初島分団に配備する。

消防団港分団器具庫を新築する。
（鉄骨平屋建２１㎡）

平成１０年　８月　(財)日本消防協会より軽可搬式消防ポンプ付軽四積載車１台寄贈され、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

１２月　消防緊急通信指令装置更新に伴い指令室を改築する。

平成１１年　３月　耐震性貯水槽(飲料水兼用６０ｔ)１基を箕島中学校庭内に設

置する。

４月　消防緊急通信指令装置（Ｉ型）を更新し運用を開始する。

８月　(財)日本消防協会より可搬式小型動力ポンプ付積載車(普通車)１台寄贈され、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

有田市婦人消防隊が第１４回全国婦人消防操法大会(横浜市)に出場する。

平成１２年　１月　土木部から水防員組織の事務移管を受ける。

４月　救急救命士（１名）合格する。

５月　全国消防長会危険物委員会を開催する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

平成１３年　２月　高規格救急車を整備、有田市消防署に配備する。

３月　耐震性貯水槽（ 飲料水兼用６０ｔ ）１基を宮原小学校庭内に設置する。

８月　水防員制度廃止に伴い、消防団員定数２００名を２５０名とする。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

平成１４年　１月　大型化学消防車（4,000L／分）と泡原液搬送車（4,000Ｌ）を更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

４月　職員１名を和歌山県防災航空隊に派遣する。

職員１名を消防大学校（救助科）に派遣する。

１０月　消防フェスティバルを有田市民会館及びその周辺において開催する。

平成１５年　３月　化学消防ポンプ自動車（Ⅰ型）を更新整備、有田市消防署に配備する。

有田市消防団が和歌山県知事から表彰旗を授与される。

４月　消防本部組織「予防課」を「警防課」に改める。

救急救命士（１名）合格する。

７月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。
（水害５０周年有田市総合防災訓練に併せて開催）

平成１６年　１月　救助工作車（Ⅱ型）を更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

２月　消防団宮崎分団器具庫を新築する。
（鉄骨平屋建２１㎡）

３月　有田市消防団が消防庁長官から消防団地域活動表彰を授与される。

有田市消防団が(財)和歌山県消防協会長から表彰旗を授与される。

４月　救急救命士（１名）合格する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。
（交通安全フェアと同日開催）

平成１７年　２月　指令車（トヨタ　サーフ）を整備、有田市消防署に配備する。

４月　職員１名を和歌山県防災航空隊に派遣する。

救急救命士（１名）合格する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催す

る。

宮原水防倉庫を新築する。
（鉄骨平屋建２５㎡）

平成１８年　２月　軽バン広報車（三菱 ミニキャブ）を更新整備、有田市消防署に配備する。

防火号（トヨタ ノア）を更新整備、有田市消防署に配備する。

４月　救急救命士（１名）合格する。

８月　職員１名を消防大学校（予防科）に派遣する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

平成１９年　２月　消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。

４月　救急救命士（２名）合格する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

１２月　消防用携帯無線機（５Ｗ）１１基整備、消防団に配備する。

平成２０年　３月　消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）更新整備、有田市消防署に配備する。
可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）更新整備、有田市消防署に配備する。

４月　救急救命士（１名）合格する。

平成２１年　２月　有田市消防団が日本消防協会長から竿頭綬を授与される。

４月　救急救命士（１名）合格する。

１０月　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。

平成２２年　３月　　軽四広報車（日産 モコ）更新整備、有田市消防署に配備する

平成２３年　２月　　広報車（日産 キャラバン）更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

３月　　東日本大震災に係る緊急消防援助隊を宮城県に派遣する。

４月　　救急救命士（１名）合格する。

９月　　紀伊半島大水害に係る緊急消防援助隊を新宮市に派遣する。

１０月　　消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドにおいて開催する。

平成２４年　２月　　軽四トラック（三菱 ミニキャブ）更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。

有田市消防団が日本消防協会長から表彰旗を授与される。

３月　　消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。

７月　　新消防庁舎建築工事を着工する。

８月　　第２４回和歌山県消防ポンプ操法大会（小型ポンプの部）で消防団宮原分団が優勝する。

１０月　　消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場において開催する。
宮原分団が和歌山県代表として第２３回全国消防ポンプ操法大会に出場する。

平成２５年　４月　　救急救命士（１名）合格する。

有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。

６月　　職員１名を消防大学校（警防科）に派遣する。

平成２６年　３月　　消防庁舎新築に伴い、消防緊急通信指令装置を更新する。

４月　　箕島４７番地に消防庁舎を新築し、移転する。
（鉄筋コンクリート５階建延べ３０４６㎡）

消防職員の定数を改正し、消防吏員４８名とする。

職員１名を和歌山県防災航空隊に派遣する。

職員１名を和歌山県消防救急デジタル無線整備推進協議会に派遣する。

８月　第２５回和歌山県消防ポンプ操法大会（ポンプ車の部）で消防団初島分団が優勝する。

１０月　消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドにおいて開催する。

１１月　初島分団が和歌山県代表として第２４回全国消防ポンプ操法大会に出場する。

平成２７年　３月　小型動力ポンプ付多機能型積載車を７台整備、消防団全分団に配備する。

有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。

１０月　消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドにおいて開催する。

平成２８年１０月　消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドにおいて開催する。

平成２９年　２月　消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。

４月　救急救命士（１名）合格する。

職員１名を和歌山県防災航空隊に派遣する。

平成３０年　２月　可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）４台更新整備、消防団　初島、港、宮崎、保田分団に配備する。

３月　大型高所放水車（２５ｍ級はしご 3,000 Ｌ ／分）を更新整備、有田市消防署に配備する。

	７月	西日本豪雨災害に係る緊急消防援助隊を広島県に派遣する。
	１０月	消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドにおいて開催する。
平成３１年	１月	公益財団法人日本消防協会から消防団に消防団防災学習車・災害活動車両（トヨタ ハイエース）１台寄贈され、有田市消防署に配備する。
	２月	可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）３台更新整備、消防団　箕島、糸我、宮原分団に配備する。
		可搬式小型動力ポンプ１台（原液搬送車積載）を更新整備する。
令和元年	８月	消防用携帯無線機（５Ｗ）２０基整備、消防団に配備する。
	１０月	消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドにおいて開催する。

総務関係

1. 消防本部(署)の組織 17

2. 歴代消防長 18

3. 消防本部の事務分掌 19～20

4. 消防班及び係の事務分掌 21

5. 消防庁舎等の状況 22

6. 階級別、年齢別消防吏員数 23

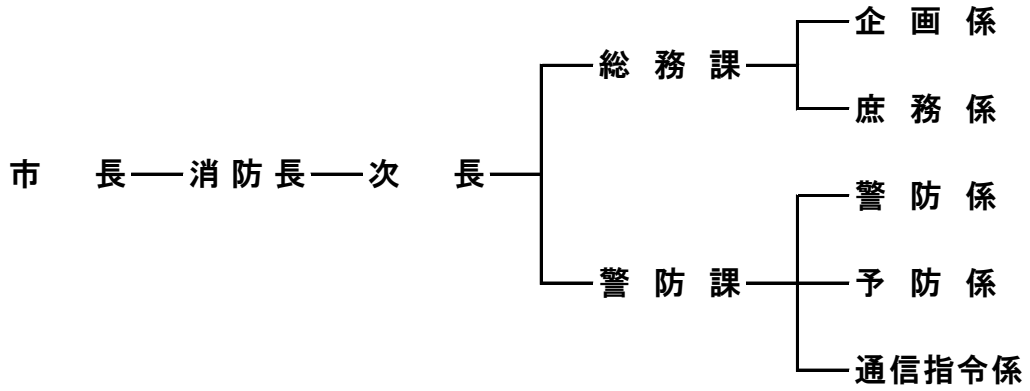
7. 市予算と消防費 23

8. 職員の特殊技能等資格取得状況 24

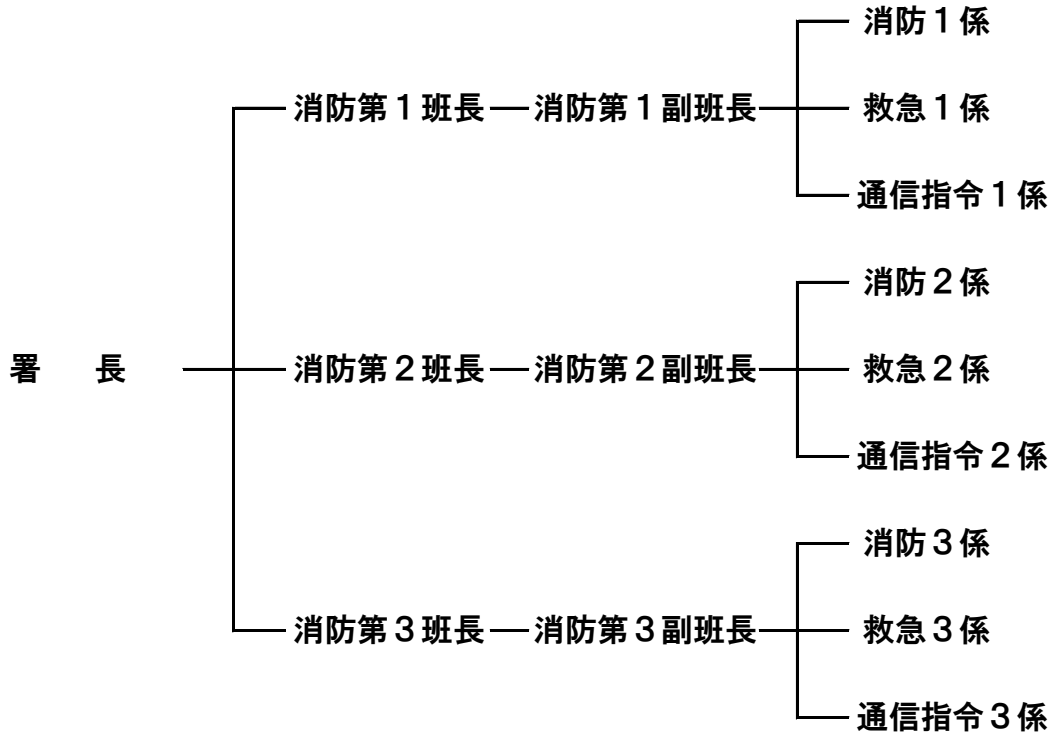
9. 消防友の会・婦人防火クラブ・幼年消防クラブ 25

１．消防本部（署）の組織

◇　有田市消防本部



◇　有田市消防署



２．歴代消防長

歴　代	氏　　名	在　　職　　期　　間	備　考
初代	大 浦 静 致	Ｓ４０．３．３０～　４３．７．３１	
２代	楠 本　茂	４３．８．１～　４３．１１．２１	
３代	大 浦 静 致	４３．１１．２２～　４４．３．３１	
４代	楠 本　茂	４４．４．１～　４４．６．８	
５代	大 浦 静 致	４４．６．９～　４４．６．２３	民生部長兼務
６代	西 中 由 三	４４．６．２４～　４９．９．２７	
７代	柏 木 義 憲	４９．９．２８～　５１．１．１１	
８代	石 井 良 雄	５１．１．１２～　５３．３．３１	
９代	瀧 川 隆 夫	５３．４．１～　５６．１．１１	
１０代	豆 塚 信 二	５６．１．１２～　５８．５．３１	
１１代	江 川 利 彦	５８．６．１～Ｈ　２．３．３１	
１２代	上 田 久 男	Ｈ　２．４．１～　４．３．３１	
１３代	泉 本 茂 信	４．４．１～　６．３．３１	
１４代	冨 長 保 雄	６．４．１～　１０．４．３０	
１５代	山 野　宏	１０．５．１～　１３．１．３１	
１６代	宇 治 利 夫	１３．２．１～　１７．３．３１	
１７代	江 川 俊 三	１７．４．１～　２０．３．３１	
１８代	谷 口 敏 章	２０．４．１～　２１．３．３１	
１９代	小 畑　清	２１．４．１～　２２．３．３１	
２０代	山 田 哲 也	２２．４．１～　２４．３．３１	
２１代	橋 本 訓 祐	２４．４．１～　２６．３．３１	
２２代	古 川 友 次	２６．４．１～　２７．３．３１	
２３代	山 本　崇	２７．４．１～　３１．３．３１	
２４代	田 邉 隆 義	３１．４．１～	

3. 消防本部の事務分掌

総務課

企画係

（１） 消防の総合的企画に関すること。
（２） 諸規定の制定改廃に関すること。
（３） 儀式及び渉外に関すること。
（４） 消防統計及び消防広報に関すること。
（５） 外郭団体に関すること。
（６） 消防団に関すること。
（７） 消防職団員等の表彰に関すること。
（８） 有田市消防団表彰審査委員会に関すること。
（９） 水防活動に関すること。

庶務係

（１） 公印の管守及び文書取扱いに関すること。
（２） 人事に関すること。
（３） 予算及び決算に関すること。
（４） 福利厚生に関すること。
（５） 給与に関すること。
（６） 物品の購入、出納、修繕及び保管に関すること。
（７） 研修及び教養に関すること。
（８） 消防組織及び職制に関すること。
（９） 職員の公務災害に関すること。
（１０） 職員の定数及び配置に関すること。
（１１） 職員の任免、分限、懲戒、服務その他勤務条件に関すること。
（１２） 職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
（１３） 消防職員委員会に関すること。
（１４） 消防庁舎の整備及び保全に関すること。
（１５） その他、他課の所管に属さないこと。

警防課

警防係

（１） 消防計画に関すること。
（２） 水火災の警戒防ぎょ及び警防対策に関すること。
（３） 消防訓練に関すること。
（４） 消防地水利の開発及び保全に関すること。
（５） 消防機械器具の開発整備に関すること。

（６） 消防関係機関との協定等に関すること。
（７） 救急救助対策に関すること。
（８） 救急機械器具の開発整備に関すること。
（９） 医療機関との協定連絡に関すること。
（１０） その他、警防・救急・救助業務に関すること。

予防係

（１） 火災予防の対策及び広報に関すること。
（２） 立入検査及び防火指導に関すること。
（３） 建築物の確認、許可及び認可の同意に関すること。
（４） 消防用設備等の着工及び設置に関すること。
（５） 消防用設備等の検査に関すること。
（６） 火災の原因及び損害の調査に関すること。
（７） 防火管理に関すること。
（８） 住宅防火に関すること。
（９） 婦人防火クラブに関すること。
（１０） 幼年消防クラブに関すること。
（１１） 危険物製造所等の許認可に関すること。
（１２） 危険物製造所等の完成検査等各種検査に関すること。
（１３） 危険物製造所等の立入検査及び防火指導に関すること。
（１４） 危険物取扱者の育成指導に関すること。
（１５） 危険物製造所等の火災の原因及び損害の調査に関すること。
（１６） 石油コンビナート等災害防止法（昭和５０年法律第８４号）の規制に関すること。
（１７） 液化石油ガス、高圧ガス及び火薬類に関すること。
（１８） その他、予防業務及び危険物の規制に関すること。

通信指令係

（１） 各種出動指令に関すること。
（２） 災害情報の収集及び伝達に関すること。
（３） 消防通信の運用に関すること。
（４） 指令室の整備及び保全に関すること。
（５） 気象観測に関すること。
（６） その他通信及び指令業務に関すること。

4. 消防班及び係の事務分掌

消防第１班、消防第２班、消防第３班

（１） 水火災又は地震等災害の警戒防ぎょに関すること。
（２） 火災の原因及び損害の調査に関すること。
（３） 通信業務に関すること。
（４） その他、消防業務に関すること。

消防１係、消防２係、消防３係

（１） 警防計画及び警防対策に関すること。
（２） 消防訓練及び指導に関すること。
（３） 消防地水利の点検及び保全に関すること。
（４） 消防機械器具の点検及び保全に関すること。
（５） 救助業務に関すること。
（６） 救助訓練に関すること。
（７） 火災の予防及び広報に関すること。
（８） 立入検査及び防火指導に関すること。
（９） 予防関係の諸届に関すること。
（１０） その他、消防業務に関すること。

救急１係、救急２係、救急３係

（１） 救急業務に関すること。
（２） 救急訓練及び指導に関すること。
（３） 救急機械器具の点検及び保全に関すること。
（４） その他、救急業務に関すること。

通信指令１係、通信指令２係、通信指令３係

（１） 各種出動指令に関すること。
（２） 災害情報の収集及び伝達に関すること。
（３） 指令室の整備及び保全に関すること。
（４） 気象観測に関すること。
（５） その他、通信指令業務に関すること。

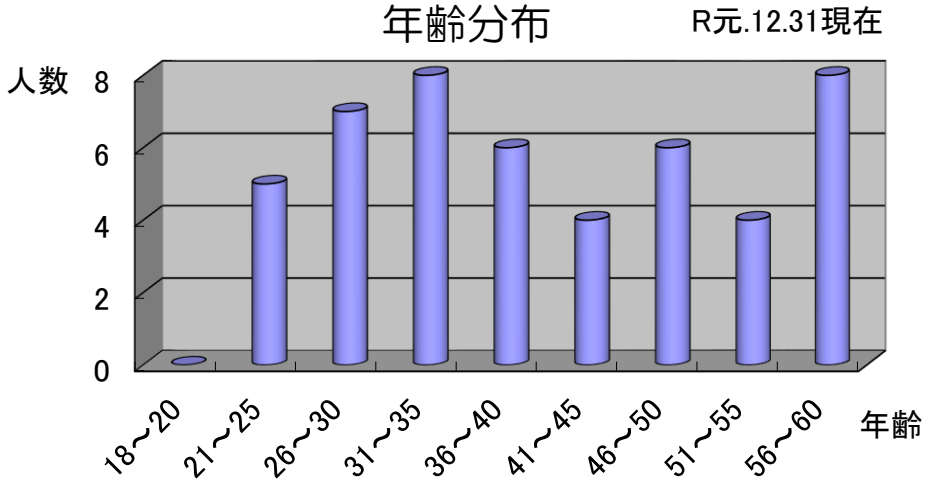
5. 消防庁舎等の状況

名　　称	所　在　地	構　造・規　模	延 面 積
有田市消防本部	有田市箕島47番地	鉄筋コンクリート	3046㎡
有田市消防署		5階建	

6. 階級別、年齢別消防吏員数

（令和元年12月31日現在）

年令＼階級	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
18才 ～ 20才							
21才 ～ 25才						5	5
26才 ～ 30才					6	1	7
31才 ～ 35才				7	1		8
36才 ～ 40才			1	5			6
41才 ～ 45才			4				4
46才 ～ 50才			6				6
51才 ～ 55才		1	3				4
56才 ～ 60才	1	7					8
計	1	8	14	12	7	6	48
平均年令	60	57	48	35	28	24	42



7. 市予算と消防費

（当初予算）　（単位；千円）　（過去5年間）

年度＼予算	市一般会計予算額	消防費	内訳 常備消防費	内訳 消防団費	内訳 消防施設費	内訳 水防費	市一般会計費消防費の比率（%）
27	11,443,000	434,077	396,075	30,266	7,569	167	3．8
28	13,187,000	475,209	433,483	34,038	7,521	167	3．6
29	12,797,000	593,683	536,279	55,436	1,802	166	4．6
30	12,768,000	479,467	426,634	50,633	2,036	164	3．8
31	13,542,000	513,662	458,582	52,363	2,067	650	3．8

8. 職員の特殊技能等資格取得状況

（令和元年12月31日現在）

種別 ＼ 階級		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
第1種運転免許	大型自動車	1	8	14	10	4	1	38
	中型自動車	1	8	14	12	7	4	46
	普通自動車	1	8	14	12	7	6	48
	牽引		1					1
危険物取扱者	甲種				1			1
	乙種		2	3	5	4	3	15
特殊無線技士			4	14	12	7	6	43
ガス溶接技能講習修了者		1	7	6				14
玉掛技能講習修了者		1	8	14	8			31
救急隊員資格者（標準課程）		1	8	14	12	7	4	46
救急救命士資格者			4	6	6			16
救助専科教育修了者		1	7	6	5	1		20
はしご自動車教育修了者			1					1
小型船舶操縦士（２級）		1	3	8				12
足場の組立等作業主任者		1	4	5				10
スキューバダイビング	初級	1	1	1				3
	中級	1	1					2
潜水士		1	4	11	8	3		27
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者		1	3	9				13
第１種酸素欠乏危険作業主任者		1	3	1	1			6
小型移動式ｸﾚｰﾝ運転技能特例講習修了者		1	8	12	9	1		31
予防技術検定			1	2	4	4		11
ドローン操縦技能				3				3

9. 消防友の会・婦人防火クラブ・幼年消防クラブ

（１）　消防友の会　　（令和元年12月31日現在）

名　　称	会　員　数	結　成　年　月　日
有 田 市 消 防 友 の 会	31 名	Ｓ．５０．　５．３１

（２）　婦人防火クラブ　　（令和元年12月31日現在）

名　　称	クラブ員数	結　成　年　月　日
有田市婦人防火クラブ 保田支部	24 名	Ｓ．５８．１０．２３
有田市婦人防火クラブ 箕島支部	27 名	Ｓ．６２．　９．２６
有田市婦人防火クラブ 糸我支部	20 名	Ｓ．６２．　９．２８
有田市婦人防火クラブ 港　支部	20 名	Ｓ．６２．１０．　２
有田市婦人防火クラブ 宮崎支部	30 名	Ｓ．６２．１０．１９
有田市婦人防火クラブ 宮原支部	20 名	Ｓ．６３．　７．　２
合　　計	141 名	

（３）　幼年消防クラブ　　（令和元年12月31日現在）

名　　称	クラブ員数	結　成　年　月　日
ぶっとく幼稚園ぶっとく子供会	72 名	Ｓ．６０．　９．１５
初島幼稚園幼年消防クラブ	17 名	Ｓ．６０．１１．１２
そとはま保育所幼年消防クラブ	36 名	Ｈ．　３．１１．　１
箕島保育所幼年消防クラブ	18 名	〃
宮崎町保育所幼年消防クラブ	19 名	〃
古江見保育所幼年消防クラブ	25 名	〃
保田保育所幼年消防クラブ	63 名	〃
糸我保育所幼年消防クラブ	18 名	〃
宮原保育所幼年消防クラブ	84 名	〃
合　　計	352 名	
備　考	そとはま保育所　H24.4.1から初島保育所・港町保育所が統合	

消防団関係

1. 消防団の組織 26

2. 歴代消防団長 26

3. 各分団等の人員 26

4. 消防団員の階級と人員 26

5. 消防団員在職年数 27

6. 年齢別・階級別消防団員数 27

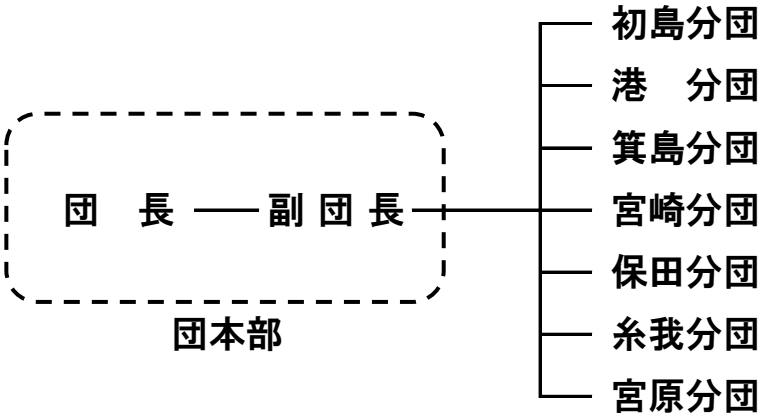
7. 施設、車両等 28～30

8. 消防操法大会 31～32

9. 消防団の出動状況 33

10. 年間活動行事 33

１．消防団の組織



２．歴代消防団長

歴　代	氏　　名	就 任 年 月 日		退 職 年 月 日
初　代	栗　山　雪　夫	Ｓ３１．　５．　１	～	Ｓ３１．　７．１６
２　代	西　川　利　治	Ｓ３１．　７．１７	～	Ｓ３３．　６．　４
３　代	梅　本　兼太郎	Ｓ３３．　６．　５	～	Ｓ４０．　１．３１
４　代	田　中　秀　一	Ｓ４０．　２．　１	～	Ｓ４２．　５．１４
５　代	石　井　　久	Ｓ４２．　５．１５	～	Ｓ５４．　５．１８
６　代	大　森　茂　樹	Ｓ５４．　５．１９	～	Ｓ６２．１１．　９
７　代	久　田　秀　雄	Ｓ６２．１１．１０	～	Ｓ６３．　７．１６
８　代	嶋　田　浩　平	Ｓ６３．　７．１７	～	Ｈ２４．　４．　５
９　代	桑　原　清　喜	Ｈ２４．　４．　６	～	

３．各分団等の人員

（令和元年12月31日現在）

	団本部	初島分団	港分団	箕島分団	宮崎分団	保田分団	糸我分団	宮原分団	計
定員	4	40	28	32	32	41	28	45	250
実員	4	40	28	30	31	39	27	45	244

４．消防団員の階級と人員

（令和元年12月31日現在）

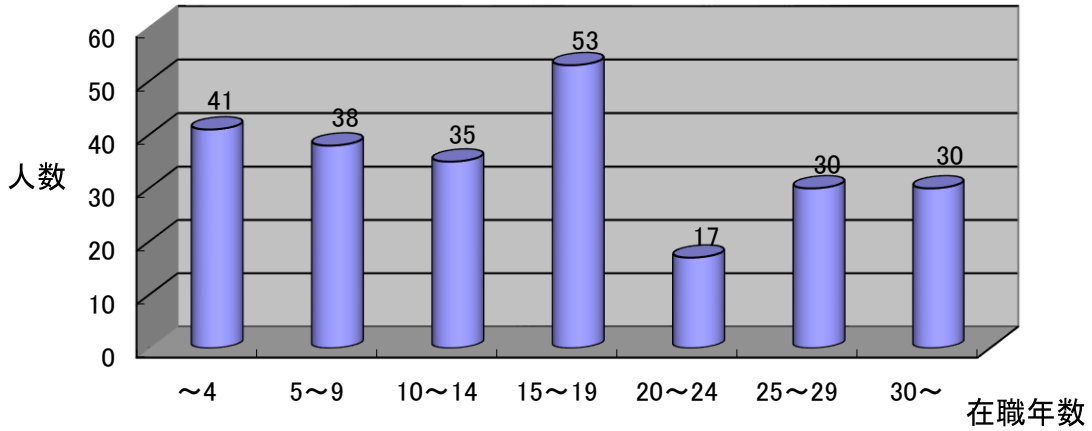
団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	計
1	3	7	7	7	23	196	244

5. 消防団員在職年数

在職年数	５年未満	５年以上 １０年未満	１０年以上 １５年未満	１５年以上 ２０年未満
消防団員	41	38	35	53

２０年以上 ２５年未満	２５年以上 ３０年未満	３０年以上	合　計
17	30	30	244

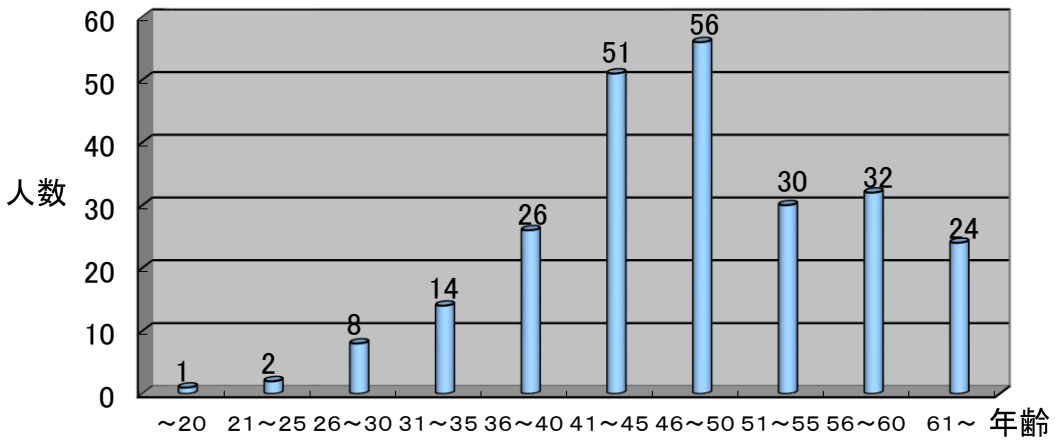
在職年数分布



6. 年齢別･階級別消防団員数

年齢＼階級	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団　員	合　計
～２０							1	1
２１～２５							2	2
２６～３０							8	8
３１～３５						1	13	14
３６～４０						2	24	26
４１～４５				1		2	48	51
４６～５０				1	1	7	47	56
５１～５５				1	1	4	24	30
５６～６０	1		4	2	1	3	21	32
６１～		3	3	2	4	4	8	24
合　計	1	3	7	7	7	23	196	244

年齢分布



7. 施設、車両等

（1）建　物

名　　称	所　　在　　地	建物面積（延 ㎡）	構　　造
初島分団詰所	初島町里1679番地の1	216	鉄筋コンクリート２階建
港　分団詰所	港町854番地	70	鉄筋コンクリート２階建
港　分団器具庫	港町75番地の1	21	鉄骨平家建
箕島分団詰所	箕島817番地の3	93	鉄筋コンクリート２階建
箕島分団器具庫	新堂772番地	21	鉄骨平家建
宮崎分団詰所	宮崎町2381番地	83	鉄筋コンクリート２階建
宮崎分団器具庫	宮崎町2382番地の4	21	鉄骨平家建
保田分団詰所	辻堂581番地	95	鉄筋コンクリート及び鉄骨２階建
保田分団器具庫	下中島249番地	21	鉄骨平家建
宮原分団詰所	宮原町滝川原513番地の1	144	鉄骨２階建
宮原分団器具庫	宮原町須谷288番地先	23	鉄骨平家建
糸我分団詰所	糸我町中番332番地の3	91	鉄筋コンクリート及び鉄骨２階建
糸我分団器具庫	糸我町中番163番地	21	鉄骨平家建

（2）消 防 車 両

所属 / 種別	初島分団	港分団	箕島分団	宮崎分団	保田分団	宮原分団	糸我分団	計
ポンプ自動車	1	1	1	1	1	1	1	7
小型動力ポンプ付多機能型積載車	1	1	1	1	1	1	1	7
小型動力ポンプ付軽四積載車	1	1	1	1	1	1	1	7

消防団無線（簡易業務用無線電話装置）

（令和元年12月31日現在）

種別	設置場所			個数
基地局 （据置型無線機）	有田市消防署　通信指令室			1
	有田市消防団　初島分団詰所			1
	有田市消防団　港　分団詰所			1
	有田市消防団　箕島分団詰所			1
	有田市消防団　宮崎分団詰所			1
	有田市消防団　保田分団詰所			1
	有田市消防団　糸我分団詰所			1
	有田市消防団　宮原分団詰所			1
移動局 （据置型無線機）	初島分団	初島分団詰所	ポンプ車　CD－1	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
			軽四積載車	1
	港　分団	港　分団詰所	ポンプ車　CD－1	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
		港　分団器具庫	軽四積載車	1
	箕島分団	箕島分団詰所	軽四積載車	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
		箕島分団器具庫	ポンプ車　CD－1	1
	宮崎分団	宮崎分団詰所	ポンプ車　CD－1	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
		宮崎分団器具庫	軽四積載車	1
	保田分団	保田分団詰所	ポンプ車　CD－1	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
		保田分団器具庫	軽四積載車	1
	糸我分団	糸我分団詰所	ポンプ車　CD－1	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
		糸我分団器具庫	軽四積載車	1
	宮原分団	宮原分団詰所	ポンプ車　CD－1	1
			小型動力ポンプ付多機能型積載車	1
		宮原分団器具庫	軽四積載車	1

移動局 （携帯型無線機）	有田市消防本部	16
	有田市消防団　本部	5
	有田市消防団　初島分団	6
	有田市消防団　港　分団	6
	有田市消防団　箕島分団	6
	有田市消防団　宮崎分団	6
	有田市消防団　保田分団	7
	有田市消防団　糸我分団	6
	有田市消防団　宮原分団	7

8．消防操法大会

全国消防操法大会

	年　月　日	出場分団	種　　目	場　　所
第５回	昭和51年10月17日	保田分団	小型ポンプ操法の部	東京消防庁消防学校
第23回	平成24年10月 7日	宮原分団	小型ポンプ操法の部	東京臨海広域防災公園
第24回	平成26年11月 8日	初島分団	ポンプ車操法の部	東京臨海広域防災公園

和歌山県消防操法大会　　（過去27回の記録）

回 数	年　月　日	開　催　場　所	出　場　分　団	
			ポンプ車の部	小型ポンプの部
第1回	昭和44年11月16日	白浜町坂田会館	選　抜	選　抜
2回	昭和45年 8月25日	和歌山市木材センター広場	選　抜	選　抜
3回	昭和46年 5月30日	新宮市緑ヶ丘中ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	選　抜	選　抜
4回	昭和47年 8月20日	橋本市紀ノ川ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	保　田	保　田
5回	昭和49年 8月25日	川辺町若もの広場	箕　島	宮　崎
6回	昭和51年 8月22日	有田郡金屋町若もの広場	宮　原	保　田
7回	昭和53年 8月27日	海草郡野上町総合運動場	糸　我	港
8回	昭和55年 8月10日	那賀郡貴志川町長山団地	宮　崎	初　島
9回	昭和57年 8月22日	田辺市明洋中ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	保　田	箕　島
10回	昭和59年 9月 2日	和歌山市水揚跡運動場	港	宮　原
11回	昭和61年 8月 3日	那智勝浦町枦浦ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	初　島	糸　我
12回	昭和63年 8月 7日	高野町高野山中学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	箕　島	宮　崎
13回	平成 2年 8月 5日	南部町南部中学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	宮　原	保　田
14回	平成 4年 8月 2日	有田市箕島中学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	糸　我	港
15回	平成 6年 7月31日	海南市県立海南高校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	宮　崎	初　島
16回	平成 8年 7月28日	県立那賀高等学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	保　田	箕　島
17回	平成10年 7月26日	上富田スポーツセンター	港	宮　原
18回	平成12年 7月30日	和歌山市せせらぎ運動公園	初　島	糸　我
19回	平成14年 7月28日	新宮商業高等学校	箕　島	宮　崎
20回	平成16年 7月25日 平成16年 8月 1日	橋本市南馬場緑地広場 和歌山市砂の丸広場	宮　原	保　田
21回	平成18年 7月30日	御坊総合運動公園多目的ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	糸　我	港
22回	平成20年 7月27日	耐久高等学校ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ	宮　崎	初　島
23回	平成22年 7月25日	紀美野町スポーツ公園	保　田	箕　島
24回	平成24年 8月 5日	紀の川市打田総合スポーツ公園	港	宮　原
25回	平成26年 7月27日	田辺市立大塔中学校	初　島	糸　我
26回	平成28年 7月31日	和歌山市せせらぎ運動公園	箕　島	宮　崎
27回	平成30年 8月 4日	和歌山県消防学校	宮　原	保　田

和歌山県消防操法大会　入賞結果

第　５回大会において宮崎分団	第２位入賞	（小型ポンプ操法の部）
第　６回大会において保田分団	優　　勝	（　　〃　　）
第　６回大会において宮原分団	第２位入賞	（ポンプ車操法の部　）
第　７回大会において糸我分団	第３位入賞	（　　〃　　）
第　９回大会において箕島分団	第２位入賞	（小型ポンプ操法の部）
第１０回大会において宮原分団	第２位入賞	（　　〃　　）
第１０回大会において港　分団	第２位入賞	（ポンプ車操法の部　）
第１３回大会において宮原分団	第３位入賞	（　　〃　　）
第１４回大会において糸我分団	優　　勝	（　　〃　　）
第１６回大会において保田分団	第２位入賞	（　　〃　　）
第１７回大会において港　分団	第２位入賞	（　　〃　　）
第１８回大会において初島分団	第２位入賞	（　　〃　　）
第２０回大会において宮原分団	第２位入賞	（　　〃　　）
第２０回大会において保田分団	第３位入賞	（小型ポンプ操法の部）
第２１回大会において港　分団	第３位入賞	（　　〃　　）
第２２回大会において宮崎分団	第２位入賞	（ポンプ車操法の部　）
第２２回大会において初島分団	第３位入賞	（小型ポンプ操法の部）
第２３回大会において箕島分団	第２位入賞	（　　〃　　）
第２３回大会において保田分団	第３位入賞	（ポンプ車操法の部　）
第２４回大会において宮原分団	優　　勝	（小型ポンプ操法の部）
第２５回大会において初島分団	優　　勝	（ポンプ車操法の部　）
第２７回大会において保田分団	第３位入賞	（小型ポンプ操法の部）

9. 消防団の出動状況

（平成31年1月1日～令和元年12月31日）

	火　災	風水害等の災害	訓　練	年末警戒	そ の 他	合　計
出 動 回 数	1	2	4	4	20	31
出動延人数	39	77	316	244	1529	2205

10. 年間活動行事

１月	出初式（６日）
３月	消防水利点検
	春の防火パレード参加（幼年消防クラブ主催）火災予防週間中
	有田市消防団機関員研修会（１７日）
６月	有田市水防訓練（２３日）
７月	有田市消防団災害対応訓練（２５日）
９月	消防水利点検
	有田市消防団救急訓練（７日）
１０月	有田市消防フェスティバル（２７日）
１１月	秋の防火パレード参加（幼年消防クラブ主催）火災予防週間中
１２月	年末警戒（２８日～３１日）

水防訓練（令和元年6月23日）

警防関係

1. 通信系統図 34

2. 消防無線局状況 35

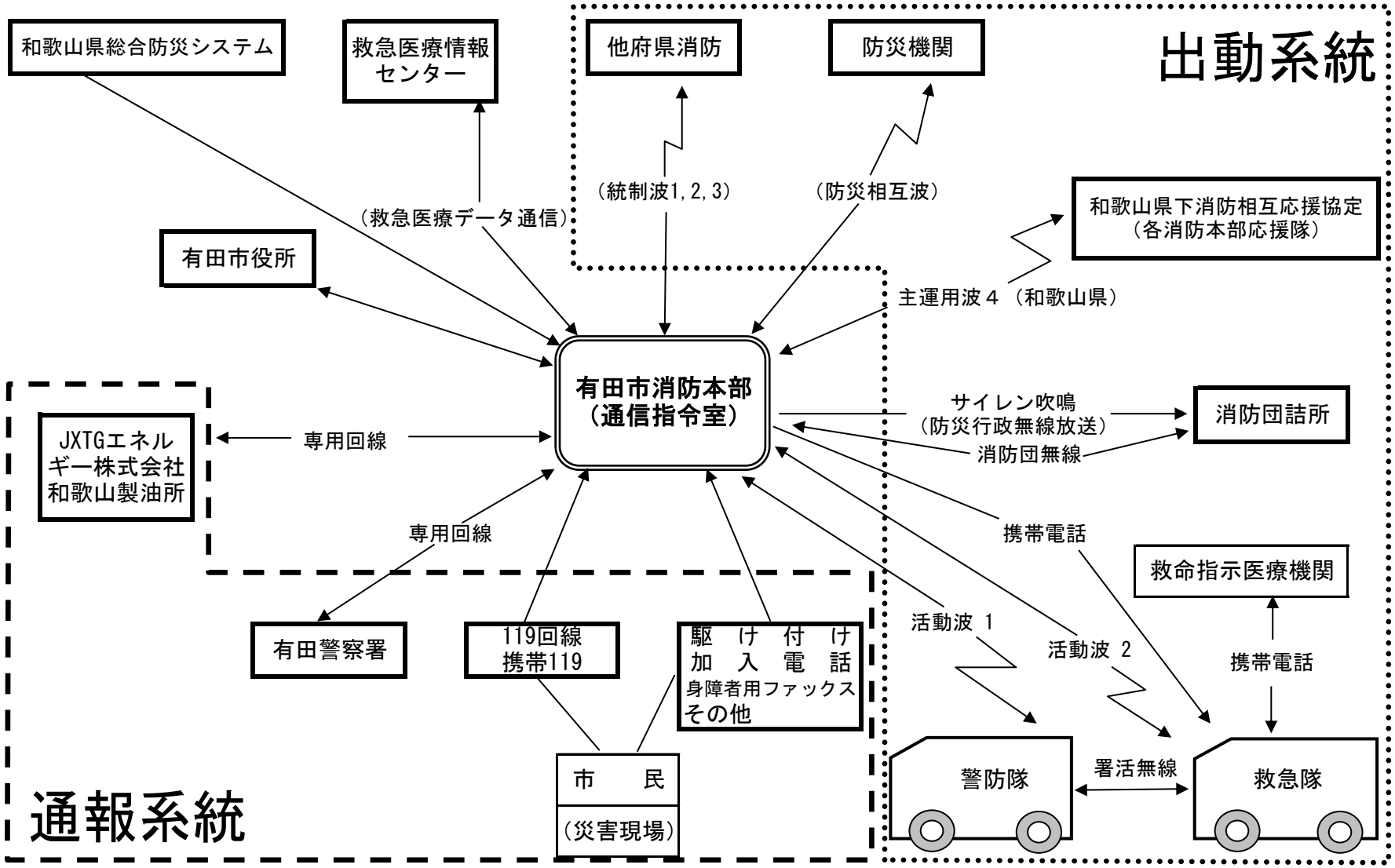
3. 消防車両等 36

4. 消防水利の現況 37～38

5. 消防用資器材の現況 39～40

1. 通信系統図

（令和元年12月31日現在）



２．消防無線局状況

（令和元年12月31日現在）

種別	呼出名称	実装周波数						出力	備　　考
		①	②	③	④	⑤	⑥		
基地局	ありたしょうぼう	○						５Ｗ	第１装置（活動波１用）
			○					５Ｗ	第２装置（活動波２用）
				○				５Ｗ	第３装置（和歌山県主運用波用）
					○			５Ｗ	第４装置（統制波１用）
						○		５Ｗ	第５装置（統制波２用）
							○	５Ｗ	第６装置（統制波３用）
陸上移動局	ありた　1	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	消防ポンプ自動車「おおわし」
	ありた　2	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	資材搬送車
	ありた　3	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	救急車「さくら」
	ありた　4	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	広報車（モコ）
	ありた　5	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	防火号(ノア)
	ありた　6	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	防災学習車
	ありた　7	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	軽四トラック
	ありた　8	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	化学消防車「白鳥」
	ありた　9	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	広報車（キャラバン）
	ありた　10	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	救急車「なでしこ」
	ありた　11	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	消防ポンプ自動車「はやぶさ」
	ありた　12	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	大型化学消防車「明神」
	ありた　13	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	大型高所放水車「天神」
	ありた　14	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	泡原液搬送車「水神」
	ありた　16	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	救助工作車（Ⅱ型）「雷神」
	ありた　17	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	軽四積載車
	ありた　18	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	軽四広報車
	ありた　19	○	○	○	○	○	○	１０Ｗ	救急車「あじさい」
	ありた　21	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　22	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　23	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　24	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　25	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　26	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　27	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型
	ありた　28	○	○	○	○	○	○	２Ｗ	携帯型

陸上移動局	ありた　27	防災相互波	５Ｗ	携帯型
	ありた　52			
	ありた　53			

陸上移動局	ありた　101 ～ ありた　115	活動波　１・２ 県内共通波 防災相互波	１Ｗ	携帯型

3. 消防車両等

（令和元年12月31日現在）

配置	車両名等	シャーシ形式等	登録年月	経過年月	ポンプ		無線呼称	備　考
					ﾒｰｶｰ名	級別		
本部（署）	消防ポンプ自動車「おおわし」	日野BDG-XZU378M	H20. 2	11. 10	ﾓﾘﾀ	A-2	ｱﾘﾀ1	CD-Ⅰ型
	化学消防車「白鳥」	三菱KK - FK61HE	H15. 3	16. 9	ﾓﾘﾀ	A-2	ｱﾘﾀ8	泡原液　300ﾘｯﾄﾙ 水 槽　1000ﾘｯﾄﾙ
	高規格救急車「なでしこ」	ﾄﾖﾀCBF-TRH226S	H29. 2	2.10			ｱﾘﾀ10	定員７人
	軽四積載車	ｽﾊﾞﾙLE-TT2	H20. 3	11. 9			ｱﾘﾀ17	4WD
	軽四広報車（モコ）	ﾆｯｻﾝDBA-MG22S	H22. 3	9. 9			ｱﾘﾀ4	定員４人
	防災学習車	ﾄﾖﾀCBF-TRH226K	H31.1	0.11			ｱﾘﾀ6	定員６人
	防火号（ノア）	ﾄﾖﾀDBA-AZR60G改	H18. 1	13.11			ｱﾘﾀ5	定員８人
	軽四広報車	三菱GBD - U61V改	H18. 1	13.11			ｱﾘﾀ18	定員４人
	小型動力ポンプ	ﾄｰﾊﾂ2WT25E	H20. 3	11. 10	ﾄｰﾊﾂ	B-3		軽四積載車積載
	消防ポンプ自動車「はやぶさ」	ﾄﾖﾀKC-BU172	H 8.10	23. 2	ﾓﾘﾀ	A-2	ｱﾘﾀ11	CD-Ⅰ型
	高規格救急車「さくら」	ﾄﾖﾀCBF-TRH226S	H24. 2	7.10			ｱﾘﾀ3	定員７人
	高規格救急車「あじさい」	ﾄﾖﾀCBF-TRH226S	H19. 2	12.10			ｱﾘﾀ19	定員８人
	大型高所放水車「天神」	日野2PG - FH1AGA改	H30. 3	1. 9	ﾓﾘﾀ	A-1	ｱﾘﾀ13	放水量3000ﾘｯﾄﾙ/分 25ﾒｰﾄﾙ級ﾊｼｺﾞ
	大型化学消防車「明神」	ﾆｯｻﾝKL-CK53XLH改	H14. 1	17.11	ﾓﾘﾀ	A-1	ｱﾘﾀ12	放水量3100ﾘｯﾄﾙ/分 泡原液槽2000ﾘｯﾄﾙ
	泡原液搬送車「水神」	ﾆｯｻﾝKL-PK252LZ改	H14. 1	17.11	ﾓﾘﾀ		ｱﾘﾀ14	泡原液槽4000ﾘｯﾄﾙ
	救助工作車(Ⅱ型)「雷神」	ｲｽｽﾞKK-FRR33D4V	H16. 1	15.11			ｱﾘﾀ16	Ⅱ型
	資材搬送車	ｲｽｽﾞU-NPR66LR改	H 4. 9	27. 3			ｱﾘﾀ2	ﾕﾆｯｸ付（2.9ﾄﾝ）
	広報車（キャラバン）	ﾆｯｻﾝCBF-CSGE25	H23. 2	8. 10			ｱﾘﾀ9	定員９人
	軽四トラック	三菱GBD-U62T	H24. 1	7.11			ｱﾘﾀ7	定員２人
	小型動力ポンプ	ﾄｰﾊﾂVF53AS	H31. 2	1. 2	ﾄｰﾊﾂ	B-3		原液搬送車積載

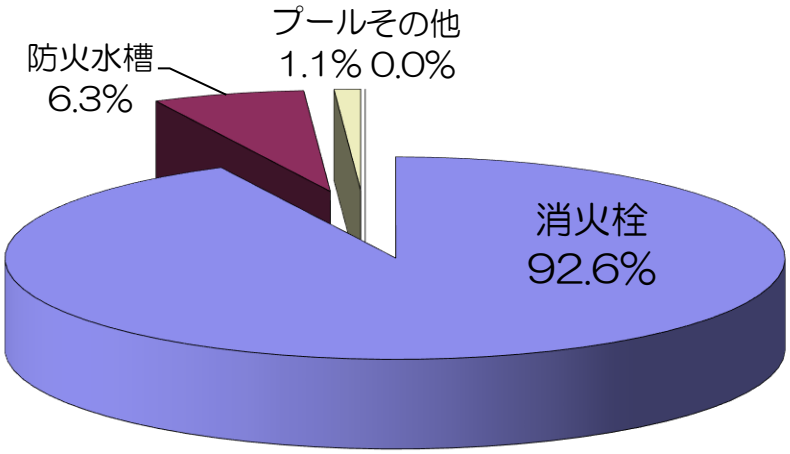
4. 消防水利の現況

（1） 現有消防水利

（令和元年12月31日現在）

水利別 地区別	消火栓	防火水槽	プール	その他	計
初　島	163	12	2		177
港	128	6	1		135
箕　島	117	7	3		127
宮　崎	170	8	2		180
保　田	251	16	2		269
宮　原	183	18	2		203
糸　我	93	8	1		102
計	1,105	75	13		1,193

現有消防水利

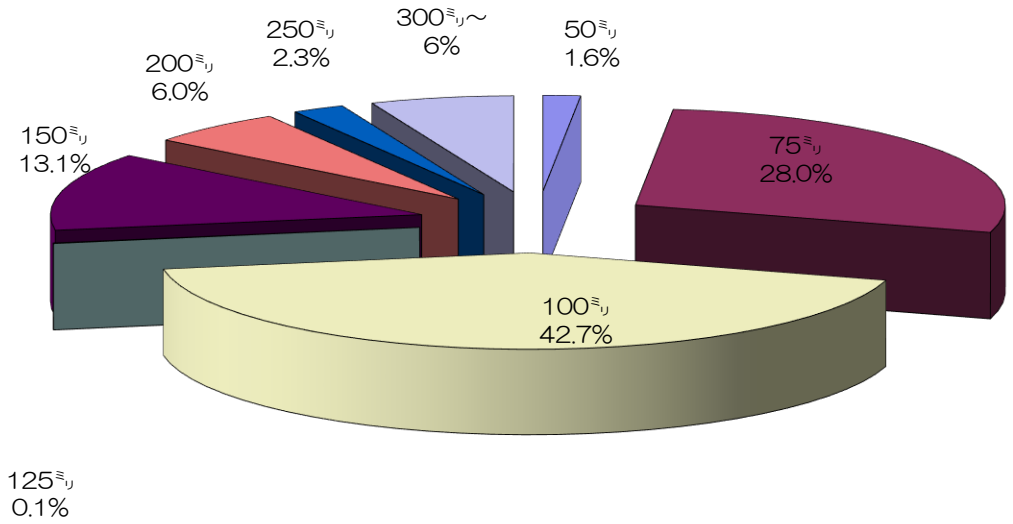


（2） 公設消火栓の配管別数量表

（令和元年12月31日現在）

配管 / 地区別	50	75	100	125	150	200	250	300以上	計
初　島	2	26	94		25	16			163
港	5	17	78		24			4	128
箕　島	1	12	37	1	27	14	1	24	117
宮　崎	2	35	58		29	23	22	1	170
保　田	1	90	101		22	4	2	31	251
宮　原	5	70	83		7	9		9	183
糸　我	2	59	21		11				93
計	18	309	472	1	145	66	25	69	1,105

配管別数量表



5. 消防用資器材の現況

（令和元年12月31日現在）

資　器　材　名		所持数
救助器具	（一般用救助器具）	
	かぎ付はしご	1
	三連はしご	2
	金属製折りたたみはしご又はワイヤはしご	1
	空気式救助マット	1
	救命索発射銃	1
	サバイバースリング又は救助用縛帯	5
	平担架	1
	ハーフスケットストレッチャー	1
	（重量物排除用器具）	
	油圧ジャッキ	1
	大型油圧スプレッダー	1
	可搬ウィンチ	2
	マット型空気ジャッキ	1
	コンビツール	1
	マンホール救助器具	1
	チェーンブロック	1
	カナテコバール	3
	（切断用器具）	
	大型油圧切断機	1
	エンジンカッター	1
	酸素切断機	1
	チェーンソー	2
	鉄線カッター	7
	空気鋸	1
	空気切断機	1
	（破壊用器具）	
	万能斧	5
	ハンマー	2
	削岩機	1
	携帯用コンクリート破壊器具	2
	（検知・測定用器具）	
	複合型ガス検知器	2
	有毒ガス測定器	1
	（呼吸保護用器具）	
	空気呼吸器	15
	簡易呼吸器	3
	防塵マスク	36
	送排風機	2
	（隊員保護用器具）	
	耐電手袋	6
	耐電衣	2
	耐電ズボン	2
	耐電長靴	2

資　　器　　材　　名		所持数
救助器具	（隊員保護用器具）	
	耐熱服	10
	防塵メガネ	36
	防毒マスク	5
	携帯警報器	11
	（水難救助用器具）	
	潜水器具	5
	救命胴衣	16
	水中投光器	1
	救命浮環	2
	浮標	1
	救命ボート	1
	船外機	1
	（山岳救助用器具）	
	バスケット型担架	1
	（その他の救助用器具）	
	投光器	6
	携帯投光器	18
	携帯拡声器	6
	携帯無線機	11
	応急処置用セット	3
	緩降機	1
	ロープ登降機	1
	発電機	6

資　　器　　材　　名		所持数
コンビナート用放水器具	多管式噴霧放水砲1,100㍑/分	※４
	可搬式泡放水砲3,000㍑/分	※２

※はＪＸＴＧエネルギー(株）に配備

資　　器　　材　　名		所持数
その他	エアーテント	2
	空気圧縮機（コンプレッサー）	1
	煙体験セット	1

予防関係

1. 業務別防火対象物別及び防火管理者数 41

2. 中高層建築物用途別棟数 42

3. 各種申請届出事務処理状況 43

4. 建築同意処理状況 44

1. 業務別防火対象物別及び防火管理者数

（令和 元年 12月 31日 現在）

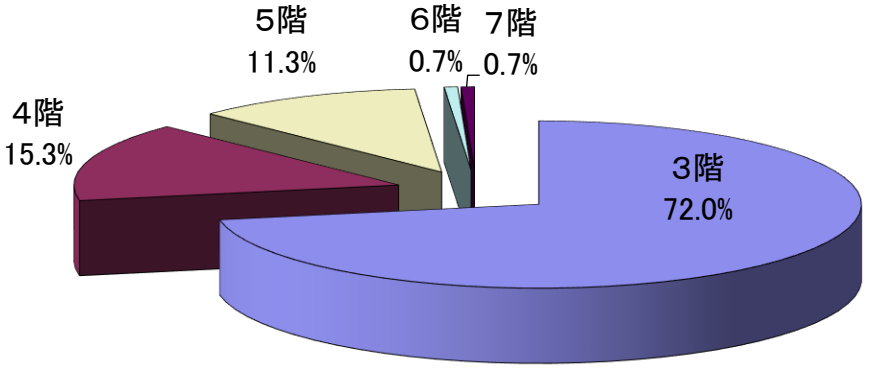
防火対象物の区分			防火対象物数	防火管理者必要数	うち防火管理者選任届出済
①	イ	劇場・映画館・観覧場	2	2	2
	ロ	公会堂・集会場	26	26	26
②	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類			
	ロ	遊技場・ダンスホール			
	ハ	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律その他これに類するものとして総務省令で定めるもの			
	ニ	カラオケボックス等（個室）			
③	イ	待合・料理店			
	ロ	飲食店	9	8	7
④		百貨店・マーケット・その他の物品販売業を営む店舗又は展示場	44	24	22
⑤	イ	旅館・ホテル・宿泊所	18	11	11
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	208	10	9
⑥	イ	病院・診療所・助産所	34	3	3
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	10	10	8
	ハ	保育所・老人デイサービス等	13	11	11
	ニ	幼稚園・特別支援学校	3	3	3
⑦		小学校・中学校・高等学校・大学・各種学校	42	32	32
⑧		図書館・博物館・美術館の類			
⑨	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場・熱気浴場等			
	ロ	公衆浴場のうち（ｲ）以外のもの			
⑩		車両の停車場・船舶・航空機の発着場			
⑪		神社・寺院・教会の類	16	6	6
⑫	イ	工場・作業場	219	17	17
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ			
⑬	イ	自動車車庫・駐車場	34	0	0
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
⑭		倉庫	201	0	0
⑮		前各項に該当しない事業所	73	24	22
⑯	イ	特定部分を含む複合用途防火対象物	45	28	28
	ロ	上記以外の複合用途のもの	12	2	2
⑯の2		地下街			
⑯の3		建築物の地階で連続して地下道に面して設けられたものと当該地下道とを合わせたもの			
⑰		重要文化財・重要民族資料	3	0	0
⑱		延長５０ｍ以上のアーケード			
⑲		市町村長の指定する山林			
⑳		総務省令で定める舟車			
合計			1012	217	209

2. 中高層建築物用途別棟数

（令和　元年　12月　31日　現在）

用途別＼階数			３階	４階	５階	６階	７階	８階	合　計
１項	イ	劇場	1						1
	ロ	集会場	1						1
３項	ロ	飲食店	1						1
４項		物販店	1	1	1				3
５項	イ	旅館	3	2	2				7
	ロ	共同住宅	18	5	3				26
６項	イ	病院	3		2				5
	ロ	養護施設		1					1
	ハ	デイサービス	1						1
７項		学校	17	1					18
１２項	イ	工場	14	5	1				20
１４項		倉庫	12	1					13
１５項		その他	18	4	2	1			25
１６項	イ	特定	13	2	5		1		21
	ロ	非特定	5	1	1				7
合　計			108	23	17	1	1		150

中高層建築物用途別棟数



3. 各種申請届出事務処理状況

（令和 元年中）

申請届出の区分	受付件数
消防計画の届出	48
消防用設備着工届	33
消防用設備設置届	57
防火対象物使用開始届	11
防火・防災管理者選任（解任）届	42
消防用設備等点検結果報告	228
防火対象物点検結果報告	29
少量危険物貯蔵取扱（廃止・変更） 届出	2
指定可燃物貯蔵取扱届出	5
炉・かまど・ボイラー・乾燥設備の設置届	7
圧縮アセチレンガス・液化石油ガスの貯蔵又は取扱の開始（廃止）届出	5
煙火の打ち上げ・仕掛の届出	10
発電設備・変電設備・蓄電池設備設置届出	14
水素ガスを充填する気球の届出	0
罹災証明申請	0
裸火使用届出	1
火災とまぎらわしい煙又は火災の発生する恐れのある行為の届出	15
露店等の開設届出	25
ネオン管灯設備設置届出	0
給湯湯沸設備・サウナ設備の届出	2
火薬類取締法関係申請・届出	5
高圧ガス保安法関係申請・届出	11
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係 申請・届出	30
合計	580

4. 建築同意処理状況

（令和　元年中）

区分＼月別		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
確認申請		45	2	0	5	6	7	5	2	6	4	5	2	1
内訳	新築	40	2	0	3	5	7	5	2	5	4	4	2	1
	増築	5			2	1				1		1		
	改築													
	その他													
計画通知														
許可申請														
計		45	2	0	5	6	7	5	2	6	4	5	2	1

危険物関係

1. 製造所等の許可、完成検査、廃止届及び休止届等の状況表 45

2. 製造所等の指定数量別状況表 46

3. 製造所等の類別状況表 47

4. 容量別屋外タンク貯蔵所の数量表 48

1. 製造所等の許可、完成検査、廃止届及び休止届等の状況表

（平成31年1月1日～令和元年12月31日）

区分＼製造所等の別			合計	製造所	貯蔵所								取扱所		
					小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	一般取扱所
許可	設置		2		1						1		1	1	
	変更		150	40	87		81		2		4		23	6	17
	の変更 常置場所	他許可行政庁に転出													
		他許可行政庁から転入	2		2						2				
完成検査	設置		1		1						1				
	変更		142	38	83		77		2		4		21	6	15
	他許可行政庁から転入														
廃止届			3		2						2		1	1	
使用休止届			2		2		2								
使用再開届			6		6		6								

2. 製造所等の指定数量別状況表

（令和　元年　12月　31日　現在）

区分＼製造所等の別	合計	製造所	貯蔵所								取扱所		
			小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	一般取扱所
施設数	558	33	474	10	328	4	17	0	109	6	51	26	25
5倍以下	43		37	6	5	1	11		14		6	2	4
5倍を超え10倍以下	24		21	3	7	3	4		4		3	1	2
10倍を超え50倍以下	98	1	80	1	63		1		9	6	17	10	7
50倍を超え100倍以下	114	2	107		34		1		72		5	3	2
100倍を超え150倍以下	26		19		11				8		7	7	0
150倍を超え200倍以下	25	1	22		21				1		2	1	1
200倍を超え1，000倍以下	80	8	66		65				1		6	2	4
1，000倍を超え5，000倍以下	36	6	25		25						5		5
5，000倍を超え10，000倍以下	26	5	21		21								
10，000倍を超えるもの	86	10	76		76								

3. 製造所等の類別状況表

（令和　元年　12月　31日　現在）

区分＼製造所等の別			合計	製造所	貯蔵所								取扱所		
					小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	一般取扱所
類別	単独	第1類													
		第2類	14	2	11		1				10		1		1
		第3類													
		第4類	542	30	463	10	327	4	17		99	6	49	26	23
		第5類													
		第6類													
	混在		2	1									1		1

4. 容量別屋外タンク貯蔵所の数量表

（令和　元年　12月　31日　現在）

類別等 容量別 単位:KL	合計	第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類
100未満	48				48		
100以上～500未満	109				109		
500以上～1，000未満	30				30		
1，000以上～5，000未満	47		1		46		
5，000以上～10，000未満	44				44		
10，000以上～20，000未満	18				18		
20，000以上～30，000未満	13				13		
30，000以上～40，000未満	4				4		
40，000以上～50，000未満	2				2		
50，000以上～60，000未満							
60，000以上～70，000未満	4				4		
70，000以上～80，000未満							
80，000以上～90，000未満	1				1		
90，000以上～100，000未満	1				1		
100，000以上～110，000未満	7				7		
110，000以上～120，000未満							
120，000以上							
合　　計	328		1		327		

火災統計

1. 過去の主な火災 49

2. 過去５年間の火災統計 50

3. 火災発生状況 50

4. 地域別出火件数と損害額 50

5. 月別火災発生状況 51

6. 曜日別火災発生状況 51

7. 出火時間別火災状況 52

8. 風速別火災状況及び損害額 52

9. 湿度別火災状況及び損害額 53

10. 覚知別出動状況 53

11. 出火原因別件数 53

1. 過去の主な火災

（昭和 53年 9月 8日 以降）

発生 年月日	地域	種別	焼損面積 (㎡)	焼損面積 (a)	損害額 (千円)	罹災世帯数	死者数
昭和 53 年 9 月 8 日	港	建物	762		25,100		
昭和 54 年 2 月 20 日	保田	林野		26	50		1
昭和 54 年 3 月 13 日	港	林野		700	0		
昭和 54 年 11 月 8 日	港	建物	1		2		1
昭和 54 年 12 月 9 日	宮崎	建物	41		1,350	1	1
昭和 56 年 5 月 10 日	港	林野		200	0		
昭和 56 年 7 月 16 日	港	建物	410		75,000		
昭和 57 年 3 月 28 日	宮原	林野		67	0		
昭和 58 年 5 月 11 日	宮原	建物	1		0		1
昭和 60 年 2 月 2 日	糸我	その他	1		0		1
昭和 61 年 4 月 28 日	保田	建物	55		3,143	1	1
昭和 63 年 4 月 10 日	宮崎	林野		198	567		
平成 元 年 4 月 18 日	保田	建物	554		24,640	2	
平成 6 年 2 月 14 日	保田	建物	21		1,195	1	1
平成 7 年 11 月 18 日	箕島	建物	68		11,638	1	1
平成 9 年 3 月 22 日	保田	爆発	0		0		2
平成 10 年 2 月 13 日	宮崎	その他	0		0		1
平成 10 年 8 月 17 日	箕島	建物	1,927		58,278	4	
平成 10 年 8 月 22 日	保田	建物	3,678		157,952	1	
平成 11 年 2 月 21 日	宮崎	林野		500	0		
平成 11 年 11 月 1 日	宮崎	建物	3		650	1	1
平成 12 年 3 月 14 日	宮原	建物	1		250	1	1
平成 13 年 10 月 24 日	宮崎	建物	29		2,785	1	1
平成 14 年 3 月 2 日	宮原	車両			75		1
平成 14 年 9 月 12 日	保田	建物	197		29,821	2	1
平成 15 年 1 月 7 日	宮崎	建物	105		2,951	2	1
平成 16 年 1 月 10 日	保田	建物	637		114,028		
平成 18 年 2 月 2 日	初島	建物			5		1
平成 19 年 3 月 2 日	保田	建物	63		1,976		1
平成 19 年 6 月 15 日	宮原	建物	0		0		1
平成 24 年 4 月 16 日	宮崎	建物	82		3,674		1
平成 25 年 11 月 28 日	宮原	建物	86		2,320	1	1
平成 25 年 12 月 4 日	糸我	建物			100		1
平成 29 年 1 月 18 日	初島	危険物			39,000		
平成 29 年 1 月 22 日	初島	危険物	800		112,000		

注　1.死者の発生した火災　　2.焼損面積50ａ以上の林野火災
　　3.焼損面積500㎡以上の建物火災　　4.損害額50,000千円以上の火災
　　5. 社会的影響の大きい火災

2. 過去5年間の火災統計

区分 / 発生年別	件数 合計	件数 建物	件数 林野	件数 車両その他	焼損棟数	焼損面積 建物（㎡）	焼損面積 林野（a）	罹災世帯数	死傷者 死	死傷者 傷	損害額（千円）
平成　２７年	4	4	0		4	123.21		1			446
平成　２８年	3	2	1		2	178	30	1		1	35,275
平成　２９年	6	1	1	4	1	61	25	1		1	182,658
平成　３０年	2	1	0	1	1	172.9		1		1	13,750
令和　　元年	1	1	0		1	22.51		0			1,298

3. 火災発生状況

（令和　元年中）

区分 / 種別	件数	焼損面積（㎡）	損害額（千円）	焼損棟数	罹災世帯数（　）は人数
建物	1	22.51	1,298	1	0(0)
林野					
車両					
その他					
合計	1	22.51	1,298	1	0(0)

4. 地域別出火件数と損害額

（令和　元年中）

区分 / 地域別	件数 建物	件数 林野	件数 車両	件数 その他	件数 合計	損害額（千円） 建物	損害額（千円） 林野	損害額（千円） 車両	損害額（千円） その他	損害額（千円） 合計
初島										
港										
箕島										
宮崎										
保田										
宮原	1				1	1,298				1,298
糸我										
合計	1				1	1,298				1,298

5. 月別火災発生状況

（令和　元年中）

	建　物				林　野			車　両		その他		焼損程度				死傷者数
月	件数	棟数	焼損面積（㎡）	損害額（千円）	件数	焼損面積（a）	損害額（千円）	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）	全焼	半焼	部分焼	ぼや	
1																
2	1	1	22.51	1,298										1		
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
合計	1	1	22.51	1,298										1		

※焼損程度については、火元建物の損害状況です。

6. 曜日別火災発生状況

（令和　元年中）

曜　日	日	月	火	水	木	金	土	合　計
件　数				1				1

7. 出火時間別火災状況

（令和　元年中）

区分 時間別	種別					損害額 （千円）	焼損面積	
	建物	林野	車両	その他	計		建物 （㎡）	林野 （a）
0～2					0			
2～4					0			
4～6					0			
6～8					0			
8～10					0			
10～12	1				1	1,298	22.51	
12～14					0			
14～16					0			
16～18					0			
18～20					0			
20～22					0			
22～24					0			
合　計	1				1	1,298	22.51	

8. 風速別火災状況及び損害額

（令和　元年中）

項目 風速(m)	件数			焼損面積					
	建物	林野	車両 その他	建物 （㎡）	林野 （a）	建物	林野	車両 その他	計
0									
1									
2									
3	1			22.51		1,298			1,298
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10以上									
合　計	1			22.51		1,298			1,298

9. 湿度別火災状況及び損害額

（令和　元年中）

項目 / 湿度(%)	件数			焼損面積		損害額（千円）			
	建物	林野	車両その他	建物（㎡）	林野（a）	建物	林野	車両その他	計
10未満									
10～19									
20～29									
30～39									
40～49									
50～59									
60～69									
70～79									
80～89	1			22.51		1,298			1,298
90以上									
合　計	1			22.51		1,298			1,298

10. 覚知別出動状況

（令和　元年中）

覚知方法	専用電話	加入電話	携帯電話	かけつけ	事後聞知	その他	合　計
件　数			1				1

11. 出火原因別件数

（令和　元年中）

区分	たばこの火	ゴミの焼却たき火	火遊び	放火の疑い放火	天ぷら鍋の過熱	電気配線電気器具	石油・ガスストーブ	溶接の火花	その他	不明	合計
件　数									1		1

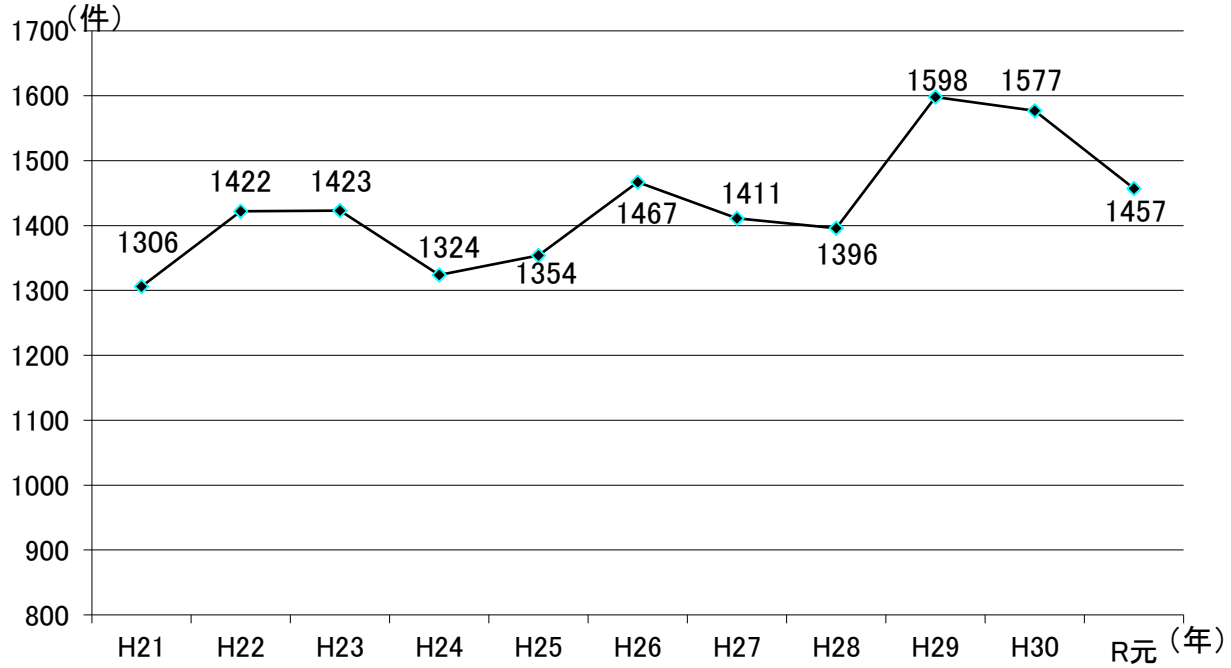
救急救助統計

1. 月別救急状況表 54
2. 救急出動件数の推移 55
3. 地区別出動件数 55
4. 事故種別出動件数 56
5. 現場到着所要時間 56
6. 搬送者の収容所要時間 56
7. 事故種別傷病程度 57
8. 年齢区分別傷病程度 57
9. 覚知別 57
10. 搬送患者住居地状況 58
11. 管内・外搬送人員状況 58
12. 管内医療機関別搬送人員状況 59
13. 転送件数及び転送理由 59
14. ドクターヘリ要請件数 60
15. 救急出動への警防隊支援出動件数 60
16. 年別救急講習回数及び参加人数 61
17. 救助活動状況 62
18. 救助人員・出動人員 62

1. 月別救急状況表

月別 ＼ 事故種別		合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
1月	出動件数	153				12			14		1	107	19
	搬送人員	151				11			14		1	106	19
2月	出動件数	107				8	1	1	16			75	6
	搬送人員	99				8	1	1	15			68	6
3月	出動件数	112				7	1		23			62	19
	搬送人員	111				8	1		22			61	19
4月	出動件数	129				5	1	1	21	1		87	13
	搬送人員	123				4	1	1	20	1		83	13
5月	出動件数	111				7	1	1	14	1	1	71	15
	搬送人員	107				7	1	1	14		1	68	15
6月	出動件数	129			1	8	2	3	12		1	82	20
	搬送人員	126				9	2	3	13			79	20
7月	出動件数	131				7	2		17		1	81	23
	搬送人員	124				7	2		16			78	21
8月	出動件数	126				9	2	4	13			78	20
	搬送人員	126				12	2	4	13			76	19
9月	出動件数	125				8	3	2	16		1	78	17
	搬送人員	122				7	3	2	16		1	77	16
10月	出動件数	125				7	1		28	1		75	13
	搬送人員	117				6	1		25	1		71	13
11月	出動件数	96				4	2	1	12			66	11
	搬送人員	85				2	2	1	12			57	11
12月	出動件数	113				5	2	1	19	2		73	11
	搬送人員	103				4	2	2	18	1		66	10
合計	出動件数	1457	0	0	1	87	18	14	205	5	5	935	187
	搬送人員	1394	0	0	0	85	18	15	198	3	3	890	182

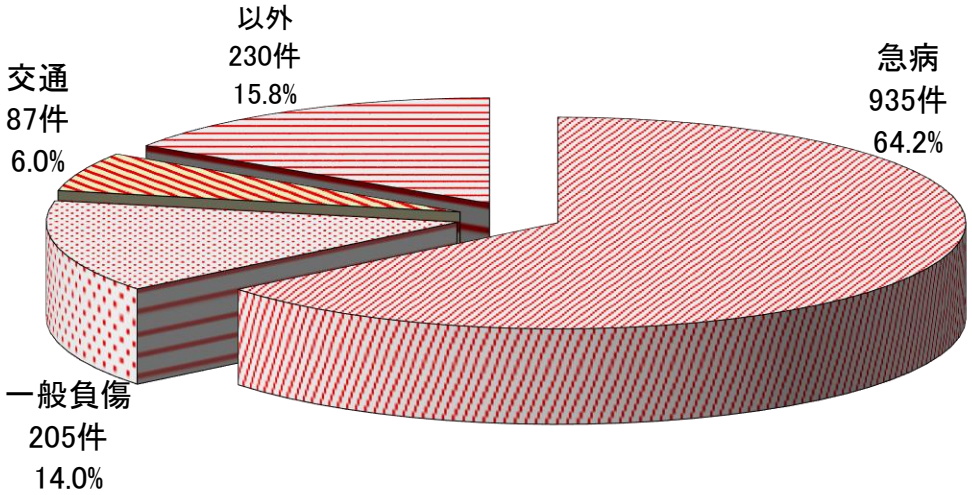
2. 救急出動件数の推移



3. 地区別出動件数

事故種別 / 地区別	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
初島地区	131				4	5		17			102	3
港　地区	136				6	1	1	20	1	2	104	1
箕島地区	238				16	1	7	35	1		136	42
宮崎地区	437			1	23	4	3	46	2	1	231	126
保田地区	268				21	3	3	45		2	192	2
糸我地区	70				6	1		10			52	1
宮原地区	172				9	2		32	1		117	11
その他（応援要請等）	5				2	1					1	1
合　　計	1457	0	0	1	87	18	14	205	5	5	935	187

4. 事故種別出動件数



5. 現場到着所要時間　平均7分29秒

時間 / 事故種別	覚知から現場到着までの所要時間					
	3分未満	3分以上5分未満	5分以上10分未満	10分以上20分未満	20分以上	計（件）
急病	8	51	679	194	3	935
交通		12	65	9	1	87
一般負傷	3	7	151	43	1	205
上記以外	3	115	88	21	3	230
計	14	185	983	267	8	1457

6. 搬送者の収容所要時間　平均42分11秒

時間 / 事故種別	覚知から医療機関収容までの所要時間						
	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	計（人）
急病		38	223	501	125	3	890
交通			28	44	13		85
一般負傷		4	33	136	25		198
上記以外		18	22	167	14		221
計	0	60	306	848	177	3	1394

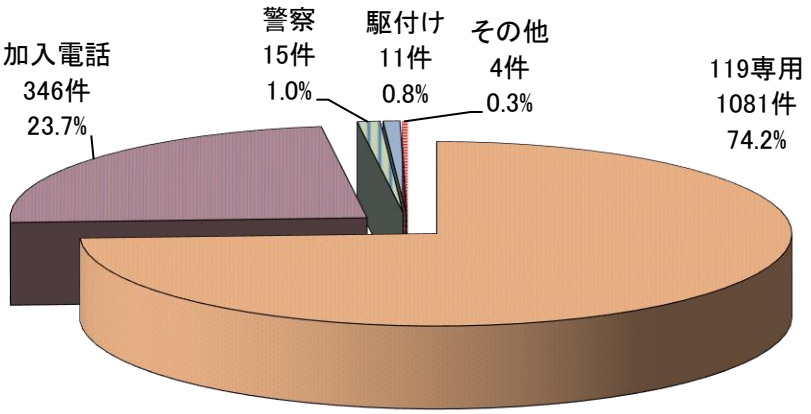
7. 事故種別傷病程度

事故種別 / 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死　亡					1		2		1	36		40
重　症				12	2		50			112	41	217
中等症				20	5	3	56		1	340	116	541
軽　症				53	10	12	90	3	1	402	25	596
計	0	0	0	85	18	15	198	3	3	890	182	1,394

8. 年齢区分別傷病程度

年齢区分 / 傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
死　亡				6	34	40
重　症			1	30	186	217
中等症		5	15	101	420	541
軽　症		43	34	222	297	596
計	0	48	50	359	937	1394

9. 覚知別



10. 搬送患者住居地状況

月別	地区別 男女別	管内 男	管内 女	管外 男	管外 女	計
1	月	62	78	7	4	151
2	月	43	47	9		99
3	月	60	42	3	6	111
4	月	55	57	5	6	123
5	月	48	45	7	7	107
6	月	41	62	15	8	126
7	月	58	58	6	2	124
8	月	53	51	13	9	126
9	月	50	56	11	5	122
10	月	61	46	5	5	117
11	月	34	43	7	1	85
12	月	44	50	6	3	103
計		609	635	94	56	1394

11. 管内・外搬送人員状況

	搬送人員	割合
有 田 市 （管内）	558	40%
有 田 郡 （管外）	152	11%
海南・海草郡（管外）	58	4%
和 歌 山 市（管外）	570	41%
御坊・日高郡（管外）	56	4%
そ の 他 （管外）	0	0%
計	1394	100%

12.管内医療機関別搬送人員状況

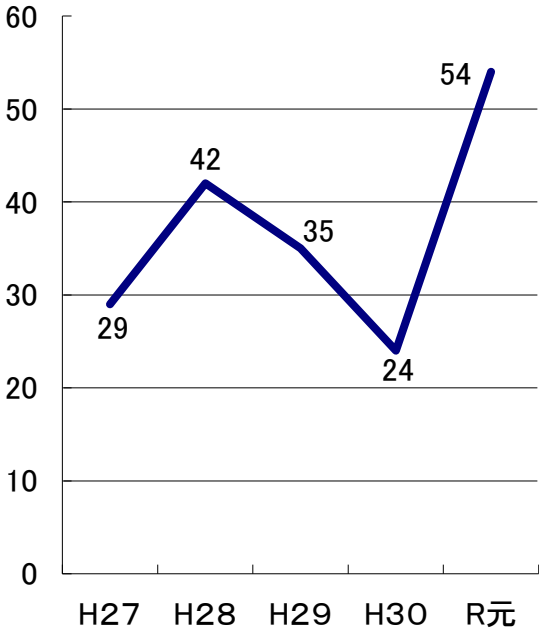
医療機関名	搬送人員	医療機関名	搬送人員
有田市立病院	498	川嶋内科医院	2
桜ヶ丘病院	49	なかもと整形外科	1
共立ハートクリニック	3	中村内科医院	1
土屋クリニック	3	しのはら小児科医院	1
		計	558

13.転送件数及び転送理由

理由 / 事故種別	ベッド満床	専門外	医師不在	手術中	入院施設なし	処置困難	理由不明	その他	計
急病						3		1	4
交通									0
一般負傷									0
その他				1					1
計	0	0	0	1	0	3	0	1	5

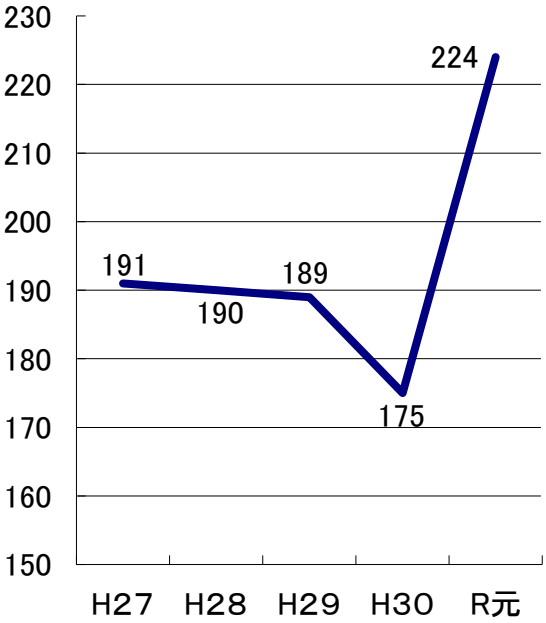
14.ドクターヘリ要請件数

	H27	H28	H29	H30	R元
火　　災					
自然災害					
水　　難		3			
交通事故	7	7	3		4
労働災害	2	1	4	1	3
運動競技					1
一般負傷	5	1		1	5
加　　害					
自損行為					
急　　病	14	26	23	20	36
他(転院)	1	4	5	2	5
計	29	42	35	24	54



15.救急出動への警防隊支援出動件数

	H27	H28	H29	H30	R元
火　　災					
自然災害					
水　　難			1		
交通事故	33	29	29	29	39
労働災害	2	1	4	2	4
運動競技					1
一般負傷	18	12	14	13	9
加　　害			1	1	
自損行為			3	7	4
急　　病	130	136	131	119	159
他(転院)	8	12	6	4	8
計	191	190	189	175	224



※ この統計は、救急隊のみでは現場活動に時間を要する事案や、ドクターヘリ離発着等の安全管理が要する事案に、警防隊がポンプ車等で現場出動した件数。

16. 年別救急講習回数及び参加人数

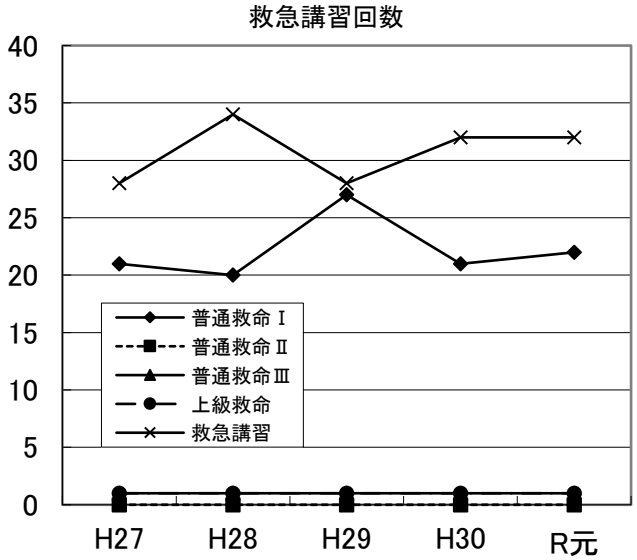
救急講習回数

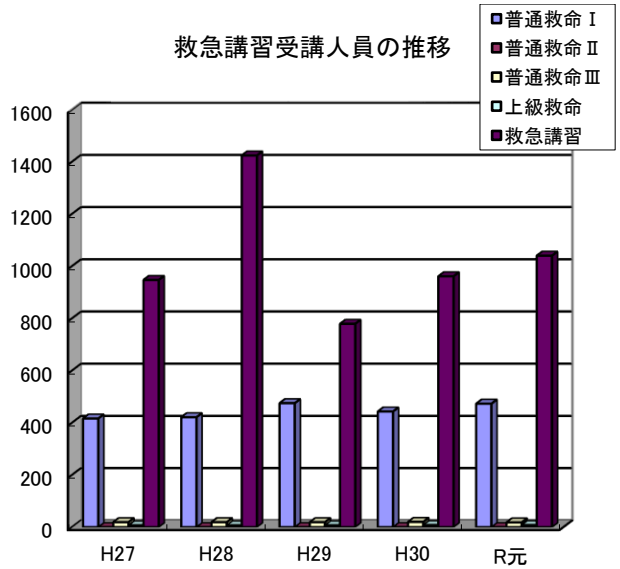
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
普通救命講習Ⅰ	21	20	27	21	22
普通救命講習Ⅱ					
普通救命講習Ⅲ	1	1	1	1	1
上級救命講習	1	1	1	1	1
救急講習	28	34	28	32	32
計	51	56	57	55	56

救急講習人員

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
普通救命講習Ⅰ	416	421	475	443	473
普通救命講習Ⅱ					
普通救命講習Ⅲ	19	19	19	20	18
上級救命講習	7	7	7	8	8
救急講習	947	1424	779	961	1040
計	1389	1871	1280	1432	1539

普通救命講習Ⅰ…【3時間】成人に対する心肺蘇生法・AEDの使用方法・その他の処置を学ぶ講習会
普通救命講習Ⅱ…【4時間】普通救命講習Ⅰの内容に加え、実技・筆記試験が追加された講習会
普通救命講習Ⅲ…【3時間】小児・乳児に対する心肺蘇生法・AEDの使用方法・その他の処置を学ぶ講習会
上級救命講習　…【8時間】普通救命講習Ⅱの内容に加え、小児・乳児に対する心肺蘇生法・傷病者管理法・外傷の手当・搬送法等が追加された講習会
救急講習　　…【3時間未満】上記以外で必要に応じて行なう講習会



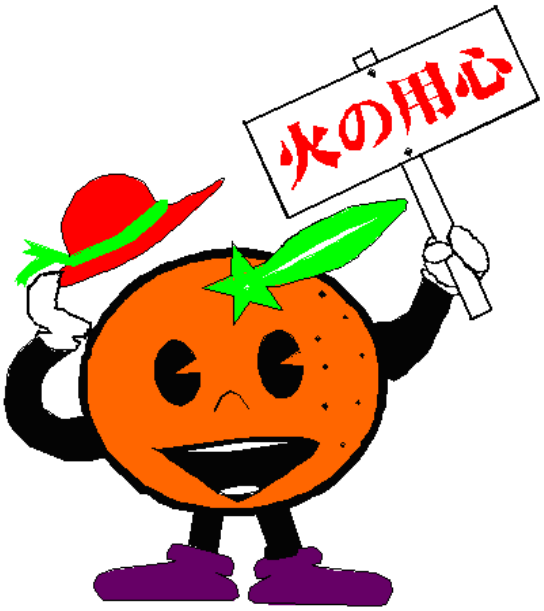


17.救助活動状況

区　分	救助事故種別									計
	火災	交通事故	水難事故	自然災害事故	機械等による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他	
出動件数		4	1						5	10
活動件数		1	1						4	6
救助人員		1	1						4	6

18.救助人員・出動人員

事故種別	火災	火災以外の救助事故種別									合計
		交通事故	水難事故	自然災害事故	機械等による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	爆発事故	その他	小計	
出動件数		4	1						5	10	10
救助人員		1	1						4	6	6
出動人員		34	4						41	79	79
活動人員		7	4						32	43	43
出動車両台数		13	2						14	29	29



有田みかんマスコット「あり太君」

〒649－0304
和歌山県有田市箕島47番地
有田市消防本部・有田市消防署
TEL：(0737)83-0119
FAX：(0737)82-2513
E-mail：【shobo@city.arida.lg.jp】